

地域の高齢の農家などから農地を積極的に引き受けて、農業生産の規模を拡大するとともに、ノウフクJASの認証を初めて受けた事業者として、農福連携の認知度向上や販路拡大にも貢献。

基本情報

- 所在地：長野県松川町
- 団体名：株式会社ウィズファーム
- 選定表彰：ノウフクアワード2020審査員特別賞「未来を耕すの部」、OMOTENASHI Selection(2021年度)、OMOTENASHI Selection(2022年度)
- 主力商品：果樹（りんご、ぶどう、桃）、にんにく、リンゴ加工品 etc.
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



ノウフクリンゴ



りんごジュース

取組の概要

- 障害者就労施設を運営する中で、障害者の工賃向上や新たな就労先として農業法人を設立。地域や高齢農家等から積極的に農地を借り入れ約206aの農地でりんご、にんにく等を生産。
- 各地のイベントやマルシェで自社農産物をPRするほか、大手リゾートホテルやスーパーとの直接取引を実現。
- 就農前に運営に関わっていた就労継続支援A型事業所・B型事業所及び、令和5年に自社で新たに設立した就労継続支援B型事業所の精神障害者、知的障害者及び身体障害者も農作業に従事。
- 工賃向上や販路開拓、農福連携のPRを目的に、令和元年11月に全国初の「ノウフクJAS」の認証を取得。

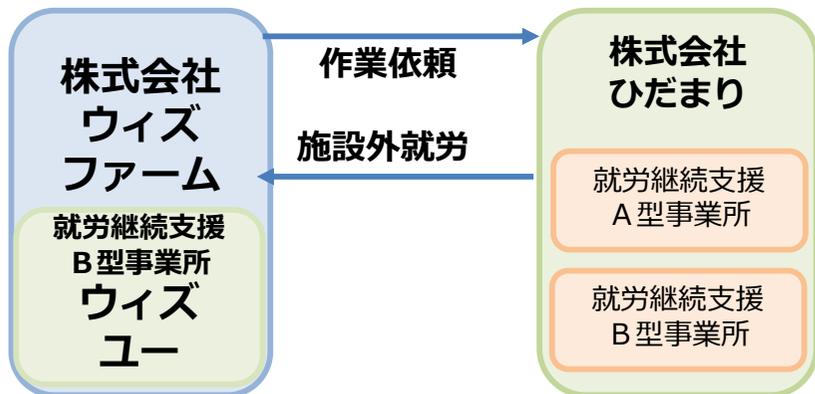


りんご園での作業



農福マルシェ

体制図



取組の成果

- 農作業を細分化して手作業を増やすことで、障害者がストレングスを活かした作業に従事できるため、継続して作業を行えるようになった。また、多くの障害者を受入れることが可能になった。
H29年度 5名 → R4年度 16名
- 長野県の平均工賃月額（16,930円）を上回る工賃（30,074円）を実現。
- 「ノウフクJAS」の取得により、取引先が拡大。

所在地▶長野県下伊那郡松川町上片桐2164-1

連絡先▶TEL:070-4398-1237 E-mail : hara3005@gmail.com

ウェブサイト▶<https://withfarm.amebaownd.com>

【取組のプロセス】

平成23年

障害者の低工賃
荒廃農地の増加
地域活力の低下

きっかけ

就労継続支援A型・B型事業所の運営に携わる中で、工賃の向上やブランドの構築、新たな就労先の確保を目的に地域の特産品であるリンゴの栽培を検討

平成29年

通常の栽培方法は、
障害者が農作業を
行うのに向いてい
ない

株式会社ウイズファームの設立

- 農福連携の推進に当たって、長野県や松川町から農業法人の設立を進められ、平成29年2月に、株式会社ウイズファームを設立し、高齢のため離農する農業者から、約40aを借り受けりんご栽培を開始。



りんご園

障害者が作業をしやすい環境の構築

- りんごの木は低く仕立て、にんにくは畝間を広くすることで、障害者が農作業をしやすい環境を整備。



にんにく畑

令和4年

販路が少ない
農福連携の知名度
が低い

販路拡大の取組（ノウフクJASの取得、インターネットの利用）

- 農作業に従事する障害者のやりがい、工賃及び知名度の向上のため、令和元年11月に、ノウフクJASの認証を取得。
- インターネットを利用し、農福産品の通信販売を行うとともに、YouTubeやメールマガジンで農福連携をPR。

（耕作面積：平成29年40a →令和5年 206a、就労する障害者の人数：平成29年5名 → 令和5年16名、令和5年度平均工賃月額：30,074円）



ノウフクJAS取得

令和5年

就労継続支援B型事業所・指定特定相談支援事業所の開設

- 農福連携の更なる発展のために、令和5年4月に就労継続支援B型事業所ウイズユーを、令和5年11月に指定特定相談支援事業所ウイズユーを開設。

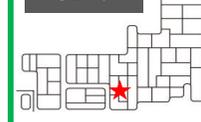
今後の
展望

地域の担い手農業者として規模拡大

- 今後、地域の高齢農業者の離農等の増加することから、担い手としてそれらの農家から農地を借り受け規模を拡大を進め、地域農業の活性化の一翼を担いたい。



YouTubeチャンネル開設



高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する地域で、農福連携により障害の有無にかかわらず、皆が活躍できる「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

基本情報

- 所在地：奈良県奈良市
- 団体名：社会福祉法人青葉仁会
- 選定表彰：
 - ノウフク・アワード2020審査員特別賞（地域を耕す）
 - 米・食味分析鑑定コンクール2018国際大会
 - プレミアムライセンスグッドファーマー（主催：米・食味鑑定士協会）
 - 令和5年度 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
- 主力商品：
 - （農作物） 水稲、さつまいも、ブルーベリー、タマネギ
 - （加工品） 干し芋、レトルト・冷凍食品、菓子等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 荒廃農地となった各地域の広大な農地で米、さつまいも、玉ねぎ、じゃがいもや夏野菜、冬野菜を20種類以上、ブルーベリーや栗など果樹を栽培。最盛期には収穫祭を開催、県内外から大勢の来客がある。
- 収穫した農産物は、法人内のカフェ・レストランの食材として、加工部門の事業所では、ブルーベリージャム、カレー、バジルペースト、干し芋、惣菜などで活用され、いずれも障害者が主力として働く。
- また、企業のOEM受託、スーパーや物産店等、全国へ農産物や加工品を出荷しているほか、地元生鮮野菜加工企業と連携し、廃棄予定の野菜の端材を引き受け、商品に加工し、またそれらの生産品を小売企業と連携し、販売活動を活性化するなど、フードロスの削減に対する事業を行っている。
- その他、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開。



稲刈りを皆で協力



ブルーベリー収穫祭



レストランでのホール業務

体制図

社会福祉法人
青葉仁会

あおはにの家 萌あおはに
（施設入所・生活介護・就労継続B）

あおはにファーム・あおはに自然学校
（農産物の生産・ブルーベリー園・観光農園）

水間ワークス（飲食店・乾燥加工）RIKUGOの森（レトルト・冷凍製品製造）ポラーノ広場（飲食店、パン製造）生駒事業所（飲食店、菓子製造）満天ひろば（飲食店、石鹸・縫製製造）デリカッセンイーハトーヴ（飲食店、給食製造）日笠ワークス（飲食店、紙漉き製造）

取組の成果

- 農産物の売上げは、625万円(H30)から1,358万円(R4)へ増加。
- 食品加工の環境を活かした就業訓練で、40名を超える利用者が一般企業に就職。
- ノウフク関連業務にあたる障害者（継続支援・生活介護・就労移行・雇用含む）の人数は427名になり、約5,660万/令和4年度の工賃・賃金を支払う。

所在地 ▶ 奈良県奈良市杉ノ川町50-1

連絡先 ▶ TEL：0742-81-0420 E-mail：info@aohani.com

ウェブサイト ▶ <https://aohani.org/>

【取組のプロセス】

昭和55年

当時障害児には、学校卒業後の選択肢は少なく、長年在宅で親兄弟の世話を受け続ける現状

平成4年

奈良市東部地域での事業展開を実施。杣の川ワークス、水間ワークス、日笠ワークス設立

平成14年

奈良県北西部に事業展開。デリカテッセンイーハトーヴ、ポラーノ広場、生駒事業所を開設

平成22年

農山漁村振興交付金事業の活用

米は10t、さつまいも12t、ブルーベリー10t、玉ねぎ5tなど、各種野菜も20種類以上栽培

今後の展望

きっかけ

義務教育卒業後の生徒たちの行き場が、社会全体で整備されていないことに大きな問題を感じたことから社会福祉法人を設立

社会福祉法人青葉仁会の設立

- 知的障害者入所授産施設あおはにの家を開設。
- 障害者の作業を行うための施設を開設するほかワークショップ等の活動も開始。

第2入所施設 萌あおはにを開所

- 生産活動を通じて社会参加を促し、自立支援と工賃を保障するため、様々な生産活動を開始。農業部門は「自然学校班」として養蜂やさつまいも栽培を担当。
- また、地域は高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する中、障害のある人たちが担い手となって「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

農業生産、食品加工を強化

- 農福連携を通じた地域の再生を目的として、さらなる生産拡大のため農業に専従する「あおはにファーム」を新設。さつまいも、米等の生産拡大を行う。荒廃した茶畑を開墾してブルーベリー園へ再生し、摘み取りを楽しめる農場では、「自然学校班」に所属する障害者が主体となって運営し、年間を通じて就労できる作業を確保。
- あおはにファームで栽培した野菜を使用した冷凍食品、レトルト食品、菓子を法人内5事業所で分担して実施。加工工程でも多くの障害者が活躍する。
- 法人内7か所の飲食店であおはにファームの野菜を活用したメニューを提供。
- 他法人と連携した事業で、ひとり親家庭への食材提供や子ども食堂利用者の収穫体験ツアーなどを実施。ビニールハウスの設置により通年安定した食料が供給できる。

地域全体を支える法人に

- 農業衰退の進む中山間地域で、障害のある人たちが主体となったマルシェ、レストラン、農産物販売、農業体験、農家生活体験の場を提供することで、地域全体の更なる集客増加を目指し、地域の人が集まれる場所、地域文化と農福連携を実現したい。
- 荒廃農地や就農者の減少を食い止め、地域の食料供給のセーフティネットとして機能することに加え、障害の有無に関係なく多くの人たちが活躍し、社会全体を支える仕組みを実現する。



施設の送迎車



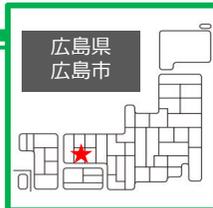
農作業の様子



自家栽培さつまいもの干し芋



農山漁村振興交付金を活用したビニールハウス



農作業を学ぶだけでなく、地域に貢献する体験を積み重ねることで自信や生きがいを持ち、自立と社会参加を目指せるよう、地域との連携を通じた協働的な学びの充実を図る。

基本情報

- 所在地：広島県広島市
- 団体名：広島県立広島特別支援学校
- 選定表彰： —
- 主力商品：トマト、きゅうり、なす、ピーマン、さつまいも、大根、白菜、人参、小松菜
- 取得認証等： —



夏野菜の収穫



ひろとくファームの垂れ幕

取組の概要

- 全ての年次の生徒が、自信や生きがいを持ち、自立と社会参加を目指せることを目的にして、作業学習【農業】の授業において、学校内の圃場で農作業を実施。
- 土ふるいや堆肥作りなどを行うため、攪拌機のある屋根付き小屋を整備し、作業棟には車いすの児童生徒が室内で安全に作業できる水耕栽培を設置している。
- 地域の公民館と連携した野菜の販売や、近隣住民を対象に訪問販売（受注型）を実施。
- 学校見学会等で来校される方々、近隣の小学校、インターナショナルスクールの児童による収穫体験を実施し、生徒が収穫や袋詰めの方法を説明する場を設けている。
- 県内の農業を専門とする高等学校と連携し、土壌調査を依頼するなど、生徒同士が学び合う場を設けているほか、近隣小学校の児童に農作業を教えている。



野菜販売の様子



農場の様子



水耕栽培施設

体制図



取組の成果

- 農作業を通して、就労に必要な基本的な態度や意欲を身に付け、様々な職種への就労につながっている。
- 公民館での販売や近隣への訪問販売では、地域貢献への意欲や社会参加への自信につながっている。
- 収穫体験や小学校、高等学校との協働活動では、学んだことを発揮し、感謝されることで自己有用感の高まりにつながっている。

所在地 ▶ 広島県広島市安佐北区倉掛2丁目47-1

連絡先 ▶ TEL:082-843-1811 E-mail: hiroshima-sh@hiroshima-c.ed.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.hiroshima-sh.hiroshima-c.ed.jp/>

【取組のプロセス】

きっかけ

自信や生きがいをもって自立と社会参加を目指し、雇用や就労につなげてほしいという思いから農福連携の取組を開始

作業学習「農業」や生活単元学習等を通して、農作業に関する学習を行う

令和3年

農福連携の開始

- 農福連携の取組から、障害のある児童生徒が地域に貢献できる体験を積み重ね、自信や生きがいをもって自立と社会参加を目指し、雇用や就労にもつながってほしいという思いから、農福連携を開始。



作業の様子

訪問販売や公民館販売など従来から取り組んでいる内容を定着、充実させるとともに取組を広める

令和4年

地域社会との連携

- 高齢化が進む地域の中で大根の訪問販売を行ったことが、高齢者の負担軽減だけでなく地域住民と生徒の交流の場となり、地域課題の解決に向けた取組の一つとなった。



訪問販売の様子

「地域協働における農福連携の推進」をテーマに、関係機関を広げ、取組を深める

令和5年

連携の輪の広がり

- 学校運営協議会を通して地域の様々な関係機関から助言を受け、農福連携の連携先や応援団になってもらうなど、連携の輪が広がり、地域を支えることができる人材として、自信や地域貢献への意欲につながっている。



収穫体験の様子

近隣の小学校の農作業の手伝いや収穫体験などを実施し、知識や技術を地域に還元する

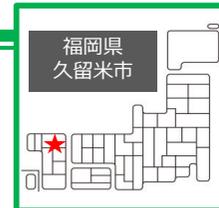
今後の展望

様々な人、場所、方法で農福連携を広め、深めていく

- 収穫体験や農作業を通して、地域に対して障害のある児童生徒や特別支援学校の取組について理解を図るとともに、農業に触れるきっかけを創出する。
- 農福連携を通して人とのつながりを増やすことで、児童生徒の雇用につなげる。



野菜販売の様子



触法者を含む34名の障害者を雇用し、認定農業者として付加価値の高い花き生産に取り組むとともに、170を超える農業経営体から多種多様な作業を受託し、地域農業を支えている。

基本情報

- 所在地：福岡県久留米市
- 団体名：一般社団法人THE CHALLENGED
- 選定表彰：－
- 主力商品：電照菊、シンテッポウユリ、仏花用花パック、施設外就労（農作業受託（花き、野菜、果樹など約40品目））
- 取得認証等：認定農業者



電照菊の施設栽培



博多シンテッポウユリ栽培

取組の概要

- 多種多様な受託作業及び付加価値の高い花き生産への取組により、利用者の適性と能力に合わせて働き方を設定。
- 障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等の多様な人材が活躍できる環境を整備し、10名以上が一般就労に移行
- 作業内容、態度、能力、経験等を考慮した評価基準に基づく昇給制度を採用。
- 通年受委託の実証モデルを独自に確立。地域における障害者に対する理解が深まり、170を超える農業経営体から作業を受託。
- 農業改良普及センターと連携し、品目別作業を標準化しマニュアルを作成。



ブドウ袋掛け



イチゴ管理作業



レタス片付け



キャベツ収穫

体制図

一般社団法人THE CHALLENGED
(更生保護協力雇用主)

- ・就労継続支援A型 K'sファーム
- ・就労継続支援B型 K's bee

- ・福祉・医療 関係
- ・更生保護 関係
- ・県・市町 (福岡、佐賀)
- ・特別支援学校
- ・大学(保育・福祉・農業)
- ・県内JA ・農業普及指導センター

連携

出荷

- ・市場 (共撰共販出荷)
- JAふくおか八女花き部会所属
↓ (選別業務委託)
- 他社会福祉法人就労継続支援A型
フラワーパッケージセンター
- ・量販店・直売所等 (個人出荷)

施設外就労

- ・農作業受託 (施設外就労)
- 農業者・農業団体・JA
(契約者数 約170件)

取組の成果

- 昇給制度を採用することで利用者等の責任感、やりがい、モチベーションの維持に繋がり、平均賃金月額が大幅にアップ。
- 地域の荒廃農地を借り受け、規模拡大と障害者等の就労機会の増加により、農業関連の売り上げが増大。

	取組当初	令和5年 (見込み)
・A型平均賃金月額 (円)	56,000	110,000
・農地面積 (a)	10	100
・農業関係収入 (万円)	9	4,700

所在地 ▶ 福岡県久留米市野中町字宮園727番地の5

連絡先 ▶ TEL:0942-80-2729

E-mail:ksfarm@thechallenged.jp

ウェブサイト ▶ <https://thechallenged.jp/ksfarm/index.html>

【取組のプロセス】

「農業を基盤とした就労困難者の就労支援」を行うことを目的として活動をスタート

平成22年

きっかけ

農家として農業を営む中で、平成22年に八女市福祉課を通じて福岡保護観察所保護観察官から要請を受け、知的障害のある青年の更生保護を開始

一般社団法人THE CHALLENGED設立

- 平成24年、一般社団法人を設立。法務省保護局が所管する協力雇用主に登録。
- 福岡県ソーシャルファーム雇用推進連絡協議会に参加（法務省主催）。

平成24年

一般社団法人を設立し福祉に参入法務省保護局が所管する協力雇用主に登録

平成27年

委託契約者数は100件を超え、収益が大幅に増加

就労継続支援A型事業所「K'sファーム」を開設

- 輪菊の電照施設栽培を開始。農業と福祉、両方の知見を持つ職員の育成に取り組む。
- 施設外就労を開始。県内のJA、農業者、県農業普及指導センターと連携を図り、受注体制強化に取り組む。平成27年には通年受委託の実証モデルを独自に確立。現在、農作業の委託契約をしている農業経営体の数は170件を超える。
- 平成29年、博多シンテッポウユリの試験栽培を開始。翌年には苗の育苗にも挑戦し、荒廃農地を借り受け規模拡大。県内における最大の生産を担い花きの産地の維持拡大に貢献。
- 平成30年、JAふくおか八女花き部会に所属し、認定農業者として認定。
- 規格外品を直売所やスーパー等で販売することで出荷率は9割を超え収益が増加。

平成29年

生産面を強化JAふくおか八女花き部会に所属し、認定農業者として認定

令和2年

A型事業所のスコア合計点は170点以上となった

受入れの拡大と連携を強化

- 令和2年、就労継続支援B型事業所「K's bee」を開設。
- 農業普及指導センターと共に、品目別作業の標準化とマニュアルの作成に取り組む。
- 協力雇用主として福岡県及び佐賀県内の刑務所が開催した農福連携意見交換会、矯正展への出店、保護司会主催の勉強会や協力雇用主との交流会に参加。

更なる利用者の所得の向上を目指し、地域農業の担い手として、地域ニーズに対応した事業展開に取り組む

今後の展望

“誰もが共に働き 共に支え合える社会の実現”を目指して

- 誇りとやりがいの持てる職場として、農業に従事できる環境と機会を創造し続ける。
- より重度の障害者の就労を図るため、新たな農作物の生産に取り組む。
- 高齢農家からの要望と利用者の所得の向上を目指し、今後も農地面積を拡大する。
- JA部会全体で高品質安定生産をすすめ、作型を分散することで規模の拡大、収益性の確保等を図り、更なる共撰共販体制を整え出荷を行う。

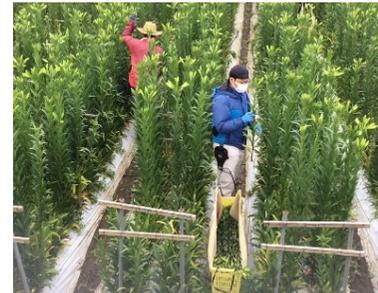


輪菊の芽摘み

(施設外就労)



ほうれん草の収穫

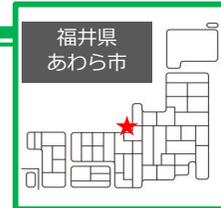


シンテッポウユリ収穫



(施設外就労)

小松菜出荷補助
(就労継続支援B型事業所)



スマート農業を活用した農福連携を実践することで、農業を通じて障害者の働く場を拡大するとともに、高齢化・後継者不足となっている地域農業の担い手として地域に貢献。

基本情報

- 所在地：福井県あわら市
- 団体名：有限会社あわら農楽ファーム
- 選定表彰：－
令和3年度 いちほまれコンテスト「最高賞」受賞
令和5年度 FUKUIふるさと納税事業者アワード「大賞」受賞
- 主力商品：特別栽培コシヒカリ、特別栽培マルセイユメロン、いちごジャム、米菓、あんぽ柿、あわせ柿
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

- 平成13年に、障害者に雇用の場を確保することを目的として、県内の社会福祉法人から独立し、新規就農。
- 平成30年にICT（情報通信技術）による圃場管理システム及び農業用ドローンを導入。令和4年には福井県農業試験場と共同で、スマート農業による農福連携の実証試験を行い、障害者がロボット田植え機、アシスト付コンバインを操作。
- 高齢化・後継者不足となっている地域農業の農作業を受託し、地域の担い手となるとともに、障害者の作業領域の拡大や、雇用・就労の機会の拡大を実現。
- 農作業受託や、除草作業等による農福連携を一年を通じて行うことで、就労の場を安定的に確保。



アシスト付コンバインによる
稲刈り作業



ロボット田植え機による
田植え作業



柿の摘果・摘蕾作業

体制図

- 有限会社
あわら農楽ファーム
- 生産部門
 - 農産物加工部門
 - 精米・販売部門
 - 観光農園部門
 - 農産物検査部門
 - 農作業受委託部門
 - 農業機械部門

作業受託

作業委託
生産物の販売

販売

- 就労継続支援A型事業所
株式会社農楽里
- 生産部門
 - 施設外就労
 - 精米部門

- ・直売所
- ・病院・特養施設
- ・外食産業
- ・量販店
- ・直販（自社ECサイト）
- ・自治体（ふるさと納税）

取組の成果

- 取組当初は5名だった施設外就労の受け入れ人数が10年で12名に増加。
- スマート農業機械を扱うことで障害者のモチベーションが向上、10年で5名が一般就労に移行。
- 高齢化・後継者不足となっている集落営農組織のほ場の草刈り、田植え、稲刈り等の作業を受託し、地域農業の担い手として信頼され、耕作面積が85haを超え、売上も順調に増加。

所在地▶〒919-0601 福井県あわら市山室72-101

連絡先▶TEL:0776-73-5955 E-mail: info@awara-nougaku.jp

ウェブサイト▶ <http://www.awara-nougaku.jp>

【取組のプロセス】

平成13年

農業生産に加えて加工販売部門を設置したことで雇用の場を拡大

きっかけ

平成13年に県内の社会福祉法人から独立し、障害者に雇用の場を提供し、地域農業の担い手として貢献することを目的に有限会社シーネット坂井を設立

平成16年

学校給食、病院、介護施設等へ食材を納入することで持続的で安定した販路を確保

米作りと野菜・果樹の生産・加工・販売に取り組む

- 法人設立と同時に認定農業者の認定を受け、平成16年に米穀の出荷又は販売事業者の届け出を行い、生産から加工・販売まで障害者の自立支援に向けた農業経営に取り組む。

平成25年

平成22年農業主導型6次産業化整備事業を活用
平成23年から観光いちご園「農楽里」を開園

名称の変更

- 就労継続支援A型事業所「株式会社農楽里」設立。
- 有限会社あわら農楽ファームに改称。

平成30年

乾燥調製施設、米穀専用集出荷保管調整施設（低温倉庫）の新設

情報通信技術の導入

- 情報通信技術（クボタKSAS）、農業用ドローンを導入することにより、電子地図を使用したほ場管理、作業の記録、進捗状況の把握など「見える化」を行い作業の効率化を図る。

令和4年

平成25年から令和4年まで10年間で5名が一般就労

スマート農業による農福連携

- ロボット田植え機、アシスト付きコンバインを導入し、障害者がスマート農業機械の操作を行うことでモチベーションがアップし、仕事に対する自信が生まれることから、一般就労へ向けてスマート農業機械を積極的に活用。

今後の展望

「ASIAGAP」
「ノウフクJAS」
を取得予定

障害者等の雇用・就労拡大と地域の活性化

- スマート農業による農福連携によって障害者の作業領域が拡大し、多様な農作業の経験などにより、一般就労への途を開き、ノーマライゼーションの実現を図る。
- 坂井北部丘陵地の景観を生かしたスイーツコーナーの新設、醸造用ブドウ栽培に取り組む。
- 農業体験、農産物の販売等、地域との連携を深め、地域の活性化につなげる。



スマート農業による田植え



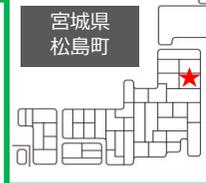
水稻の播種作業



畦草刈作業



あんぽ柿の皮むき作業



地域の就労継続支援A型事業所と連携することで、障害者が地域と繋がりをもって働ける場を創出するとともに、安定した作業賃金確保や、一般就労への移行を支援しており、様々な地域活動にも参画することで地域の活性化にも寄与。

基本情報

- 所在地：宮城県松島町
- 団体名：有限会社 F・F磯崎
- 選定表彰：－
- 主力商品：生かき、水稲、さつまいも、かぼちゃ、トマト、きゅうり、なす、玉ねぎ 等
- 取得認証等：認定農業者



生かき



露地野菜ほ場

取組の概要

- 半農半漁が生業の松島町磯崎地区において、就労継続支援A型事業所「松島のかぜ」から約20名の利用者を受け入れ、約60haの農地で水稲やさつまいもの栽培、牡蠣養殖を実施。
- 地域の農協、漁協、中小企業からの委託業務を請け負い、「松島のかぜ」の利用者と受託先の従業員の協同作業などを実施している。
- 農産物の加工施設と利用者の休憩場を併せて整備し、農産物の付加価値向上と作業環境の改善を実施。
- 地域活動にも積極的に参加しており、酒屋・酒蔵・8つの旅館と連携した「特別純米酒いやすこ」の共同生産活動では、原料の「ひとめぼれ」を減農薬栽培し提供している。



畑の除草作業



整備した加工場



生かきの共同むき身作業



酒造りプロジェクト

体制図

農業法人
有限会社 F・F磯崎

連携

一般社団法人 松島のかぜ
(A型事業所)

企画運営班
(企画、運営、事務処理 等)

水田農業班
(水田農業の指導、管理 等)

畑作農業班
(畑作農業の指導、管理 等)

農産加工班
(農産物加工の指導、管理 等)



取組の成果

- 利用者が地域で働く環境を創出することで、担い手が不足している農業、漁業労働力の確保、経営の安定化に貢献し、地域産業の衰退の歯止めとなっている。
- 海上作業には手当を支給するなど、安定した作業賃金確保に努め、F・F磯崎から利用者に対し、月額平均4～5万円の賃金を支払っている。
- 特別純米酒の共同生産が縁で、各旅館から米、野菜、生かき等の直接受注を受けるようになり、経営の安定化につながっている。

所在地 ▶ 宮城県宮城郡松島町磯崎字磯崎101

連絡先 ▶ TEL:022-355-1136 E-mail：－

ウェブサイト ▶ <https://ffisozaki.jimdofree.com>

【取組のプロセス】

平成25年

農福連携の取組開始

きっかけ

高齢化が進み著しく農家数が減少するなか、東日本大震災による離農の増加と地域内の労働力不足に対応するため、就労継続支援A型事業所「松島のかぜ」と連携し農福連携の取組を開始



整備されたほ場で作業する利用者

平成28年

復興基盤総合整備事業（H28～R2）

復興基盤整備を契機とした農福連携の取組拡大

- 平成28年度から令和2年度にかけて復興基盤整備事業の工事が実施され、地域内の震災で甚大な被害を受けた農地の大区画化と集積、集約が図られた。F・F磯崎は磯崎地区の大部分を耕作する地域の担い手となり、利用者の就業機会が拡大。

令和2年

農山漁村振興交付金農福連携対策（R2～R3）

農山漁村振興交付金農福連携対策の活用

- 農福連携整備事業では、農産物加工場、休憩場所、トイレ等を整備し、利用者の就労環境が大幅に改善されるとともに、就労拡大も実現できる状態となった。
- 農福連携支援事業では、作業マニュアルの作成、農業生産・加工技術研修、先進地視察、地域交流会等を実施し、組織の一体感、生産活動への意欲が高まった。
- 様々な地域のイベントにも積極的に参加し、中心的な役割を担う。



農産物加工の研修

令和5年

農産物の6次産業化商品開発

農福連携によるさつまいも、とうもろこしの本格栽培、加工開始

取組の継続と発展

- 就労継続支援A型事業所利用者からの受け入れ人数は令和元年の15人から令和4年には22人に増加。利用者はこの期間に8名が一般就労に移行。
- 加工施設では、かぼちゃやさつまいものペーストを試作し、近隣の飲食施設等へ提供しており、今後は牡蠣やさつまいもなど加工品の商品化等も視野に取組の拡大を図る。



加工場とかぼちゃのペースト

今後の展望

経営の安定と障害者の就労機会の確保を目指して

- 農産物加工品の開発、販路開拓等を進めて経営の安定を図り、最低賃金としていた障害者の賃金の更なる賃上げを目指す。
- 地域交流イベント等に積極的に参加し、障害者の地域との繋がりを創出するとともに、磯崎地区の活性化に寄与する。



地域イベントへの参加



就労継続支援B型事業所として3箇所の農場を経営し、有機野菜の生産・体験農場、稲作・竹細工、平飼い自然養鶏など、幅広い取組を実施し、農業のフィールドを生かして障害者の働きがいを深めている。

基本情報

- 所在地：茨城県つくば市
- 団体名：NPO法人ユアフィールドつくば
- 選定表彰：茨城県ドリームプランプレゼンテーション最優秀賞、人間力大賞グランプリ農林水産大臣賞、TYOP（世界の傑出した若者10人）
- 主力商品：季節の野菜セットの販売
- 取得認証等：認定農業者



春の野菜セット



野菜栽培に取り組むスタッフ

取組の概要

- 地域の約15haの荒廃農地を活用し、毎日約100名の障害者が、水稻（5.5ha）、野菜（8ha）の栽培、養鶏（1,300羽、0.7ha）などに従事。
- 農福連携技術支援者研修の研修農場としての受け入れや、企業への研修の受け入れ等を積極的に実施し、農福連携の取組を発信。
- 見学会、イベントの開催、体験農園（0.8ha）の設置等、近隣住民と交流できる企画を多数実施。



田んぼ



イベントの様子



平飼い養鶏

体制図

NPO法人
ユアフィールドつくば

ごきげんファーム
(就労継続支援B型
3事業所)

ひだまりベース
(グループホーム)

ブルーフロッグ (放課
後等デイサービス)

ハイク (訪問看護ス
テーション)

取組の成果

- 道具や作業行程を工夫し、様々な障害のある利用者が作業しやすい環境づくりに取り組むことで、障害のある利用者も主体的に関われ、就職につながる利用者も多い。
- 茨城県の平均工賃月額（15,201円）を上回る工賃（25,000円）を実現。
- 荒廃農地を活用し、農地面積は、平成23年度の1.2haから令和4年度には15haに拡大。

所在地 ▶ 茨城県つくば市大角豆2168-1
 連絡先 ▶ TEL:029-875-5660 E-mail:—
 ウェブサイト ▶ <https://yf-tsukuba.com/>

【取組のプロセス】

平成23年

農業者の不足
障害者の働く場所
の不足

きっかけ

議員インターシップに参加し、農業と福祉双方の問題を知り、自分事を感じたことから、この問題に関わりたいとの思いから「ごきげんファーム」を設立

ごきげんファームの設立

- 農業者の後継者不足、障害者の働く場所が不足していることを解消したいと考え、「ごきげんファーム」を設立。



ごきげんファーム

地域の課題解決に
取り組む

近隣地域との連携

- 障害者の工賃の向上を目標に取り組んでいたが、障害者や家族が望んでいるのはそれだけではないことを知り、暮らしの場や遊べる場、地域住民と交流できる機会を増やしていくことにシフト。
- 意識的に近隣地域への販売を増やし、そこでできた繋がりが深まっていくように定期的に夏祭りや収穫祭などのイベントを開催。
- 令和元年にはグループホームの運営を新たに開始し、障害者の暮らしの場を確保。



秋の収穫祭

令和4年

近隣地域約200世帯に季節の野菜
セットを販売

活動の拡大

- 茨城県の平均工賃月額（15,201円）を上回る工賃（25,000円）を実現。
- 1.2haの農地から活動を開始し、荒廃農地を再生しながら、令和5年度には15haの耕地面積で農作業を実施。



耕作地

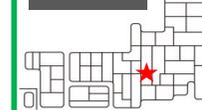
今後の
展望

幅広い農業への取組

- 地域にとって本当に価値ある農業のフィールドを作っていくことで、一緒に活動する人を増やしていく。
- お弁当の販売、カフェの開設等を予定しており、不登校の子供たちの居場所づくりや、子ども食堂、マルシェ、障害者家族向けのサロンの開催などに取り組み、地域住民が様々な形で関われる場にしていく。



収穫の様子



障害者の自立支援と雇用創出を目的に農業に参入。荒廃農地の再生による耕作面積の拡大と労働力確保による新作物の栽培等を実現。新商品を開発し、地域イベントへ出店・販売することで生産や販売意欲が向上。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：株式会社LSふぁーむ
- 選定表彰：－
- 主力商品：葉物野菜（サンチュ、ベビーリーフ等）、ヌマダイコン、米、玄米加工品、野菜加工品
- 取得認証等：総合化事業計画認定、

JGAP取得



主力商品のベビーリーフ



農福の圃場で栽培した野菜を使用した餃子

取組の概要

- 機械設計業、人材育成業を営む企業の農業部門として農業参入。グループ内の就労継続支援A型事業所に農作業を委託。
- 農業や6次産業化製品の製造などの各作業ごとに障害者の中からリーダーを任命、商品開発にも障害者が従事。
- 障害者が働きやすいように、柱やパイプの無いエアドーム式ハウスを平成27年に開発。
- 労働力を確保できたことにより、荒廃農地で葉物野菜、絶滅危惧種の「ヌマダイコン」や特別栽培米の栽培を実現。
- 地域の特別支援学校と農業体験できる機会を設けて農業振興を発信し、農業を通じて地域交流を行う。



ハウスでの作業風景

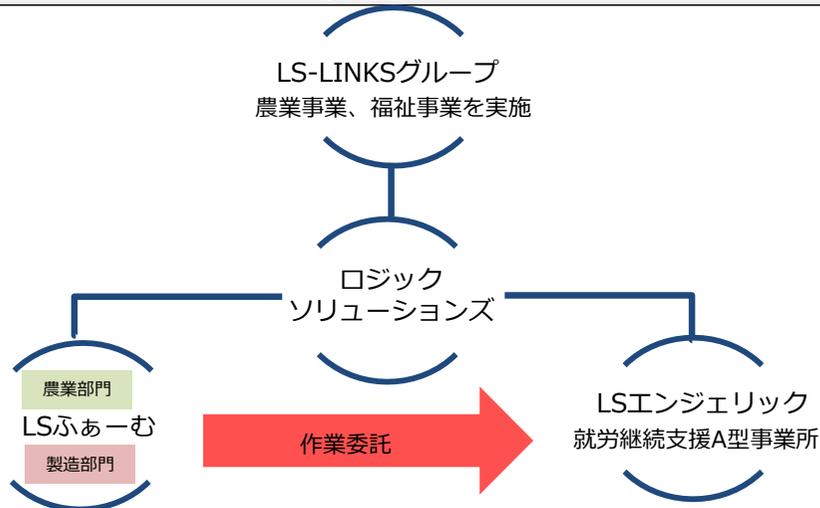


絶滅危惧種のヌマダイコン（ハーブ）



障害者が加工施設で製造した玄米だんご

体制図



取組の成果

- 平均賃金月額は平成23年の約6万7千円から令和5年の約8万円へ増加。
- 農地面積は平成23年の20haから令和5年の42haと2倍以上に増加。
- 農業や販売に携わる中で地域住民と交流する機会が増え、生産や販売意欲の向上につながり、これまでにグループ内の就労継続支援A型事業所から6名が一般就労に移行。
- 取組の輪が広がり、隣県の障害者が生産した農産物とコラボした商品を開発。

所在地 ▶ 岐阜県岐阜市藪田南1-11-9

連絡先 ▶ TEL:058-213-0711 E-mail:ogawa@ls-farm.com

ウェブサイト ▶ <http://www.ls-farm.com/>

【取組のプロセス】

(株)ロジックソリューションズの農業部門として設立
平成22年に法人格を取得

平成22年

きっかけ

障害者のための自立支援と雇用創出の場として、また労働力不足の解決策としてスタート。

農業生産及び6次産業化における農福連携を開始

- 個人のスキルや個性に適した仕事を与え、作業毎にリーダーを任命することで仕事に対する責任感とやりがいが増える。
- 製造方法を記載した手順書の作成や、一目でわかるように資材置き場にガイドをつけることで、誰でも作業を行うことができるように工夫。
- 平成25年6次産業化推進整備事業を活用し、農産物加工施設を整備。玄米だんごの増産設備が整い、障害者と連携して製造開始。



6次産業化推進整備事業で整備した加工施設

6次産業化推進整備事業（農林水産省）の活用

平成24年

エアドーム式ハウスを開発

令和元年

エアドーム式農業ハウスの開発

- 平成27年に「エアドーム組立式技術特許」を取得。エアーで膨らませるハウスであり、柱やパイプが存在しないため、怪我のリスクを軽減。
- 夏場のハウス作業は冷風扇やミストを設置し、熱中症対策を講じている。



エアドーム式農業ハウス

絶滅危惧種ヌマダイコンの栽培スタート

農福推進事業の活用

- 絶滅危惧種である「ヌマダイコン」を守るため、栽培保護・栽培技術を確立。また、岐阜県の令和4年度農福連携推進活動緊急対策事業において、ヌマダイコンを加工するための機械類を導入し、新商品を開発。



障害者と一緒に販売会を行ったときの様子

農福連携推進活動緊急対策事業（岐阜県）の活用

令和4年

ハツシモの特別栽培開始

全ての人に分け隔てなく働き、持続可能な社会へ貢献する

- 地域の祭りやイベントに積極的に参加することで、障害をもった人に対する理解を地域に広める。
- 地域の農地保護のために契約農地の拡大を行い、同時に障害者の雇用を拡大する。
- ノウフクJASやぎふ清流GAPの取得による販路拡大に取り組み、障害者の賃金向上につなげる。

今後の展望



食育活動



ハウスでのいちご栽培を中心とした農作業を通年で実施。県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。高品質ないちごを生産することで、県農業の担い手として期待。

基本情報

- 所在地：三重県松阪市
- 団体名：社会福祉法人 まつさか福祉会
- 選定表彰：－
- 主力商品：いちご（ASIA GAP認証）
- 取得認証等：ASIA GAP認証



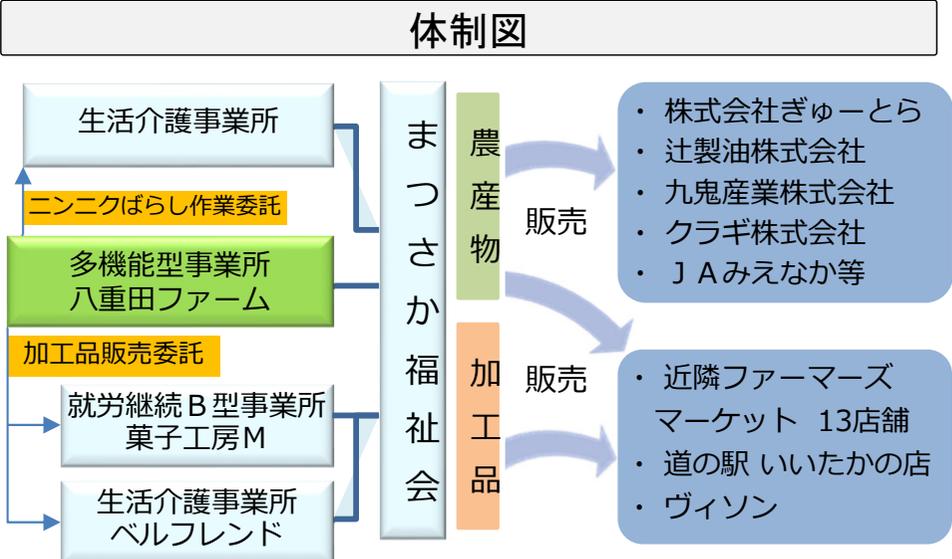
ASIA GAP 認証登録証明書

取組の概要

- 知的障害者、精神障害者の16名で農作業・加工作業に取り組む。
- ハウス35aでいちごを生産。約2.5haの露地でナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等を生産。いちごジャム等への加工にも取り組む。
- 離農した農業者から借り受けたいちごハウスに、平成25年度「『農』のある暮らしづくり交付金」(農林水産省)の補助を受け、高設栽培システムを導入し、持続力がない障害者が作業しやすくしている。
- 農薬散布のため、虫の写真などをハウス内に貼ることで、利用者に害虫について知ってもらうとともに、品質管理への意識向上を図っている。



主力のASIA GAP認証いちご ナバナの収穫作業 いちごの収穫作業



取組の成果

- 平成30年度には、県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。
- いちごの品質が認められ、平成30年には国際線機内食にも採用。
- いちご導入当時より利用者ができる作業が増え、収穫作業にも従事。
- 農地面積が25a（平成30年度）から3ha（令和5年度）に増加。県内大手スーパーと直接取引を開始。
- 就労継続支援B型事業所の利用者の平均工賃月額は取組当初の約25,000円（平成27年度）から約38,000円（令和5年度）に増加。生活介護利用者に対しても13,000円から15,000円を支給（令和5年度）。

所在地 ▶ 三重県松阪市八重田町31-6
 連絡先 ▶ TEL:0598-63-1551 E-mail:mu-yaeda@mctv.ne.jp
 ウェブサイト ▶ <https://mukaiyaebell.or.jp/office/yaeda.html>

【取組のプロセス】

荒廃農地の増加で農地の借入が可能になった

平成16年

きっかけ

利用者と屋外での作業がしたいという思いから、法人理事の農地等を借り、25aの農地からスタート

平成18年

いちご栽培を本格化

- 離農したいいちご農家から、ハウスを借り受けて栽培を開始。
- 八重田町・隣町との交流（夕涼み会・収穫祭に参加）も始まる。

平成20年

いちごハウスの倍増

- 地域農家にいちごの品質といちご栽培の技術が認められる。
- 平成25年～令和5年にかけて4軒の農家のハウスを借入。
- 収入はいちご栽培を始める前と比べ4倍以上となった。
- 県内の医療少年院の在院実習生を受け入れて、さらなる農福連携への取組を強化。

平成25年

農産物の加工製造を開始

- 衛生面に配慮できるメンバーにより、規格外のいちご等を使ってジャムを製造。
- 地元業者との連携や、子供会の芋ほり用のさつまいもを無償で提供する等の地域貢献も行っている。

平成26年

令和2年

加工作業の強化

- 色々な作物を出荷目的ではなく練習目的で栽培しており、生産性・採算性・作業性を考えて方針を決めようとしている段階。今後は農作業が苦手な人への職種の選択肢を増やすため、加工作業を強化していく。

今後の展望

隣町のいちご農家が減ってきており、空きハウスを借入

『農』のある暮らしづくり交付金（農林水産省）を受ける

高齢化の波があり、近隣ハウスを借入し規模拡大

ヤマト財団「ステップアップ」助成金を受ける

いちごジャム作りをスタート



地域の理解により拠点を整備



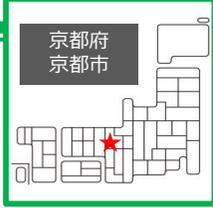
35aのハウスでいちごを栽培



紅はるかを焼き芋にし、いちご、ブルーベリー、キウイと組み合わせたこだわりジャム



ドライフルーツ
左：いちご、右：かき



障害者目線の職場環境や作業手順に配慮し、九条ネギをメインとした野菜の生産に取り組むとともに、障害者や就労困難者の雇用、就労支援にも積極的に取り組む。

基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 団体名：株式会社しんやさい
- 選定表彰：
 - ・ 障害者雇用優良事業所表彰（令和5年度）
 - ・ 優良勤労者表彰（令和5年度）（京都府知事）
 - ・ 中小企業ミライ絵日記アワード2023 審査員賞（（一社）ちいきん会・（一社）スマートニッチ応援団 共催）
- 主力商品：九条ねぎ、長なす、金時人参、聖護院大根、聖護院かぶ、新京野菜等
- 取得認証等：認定農業者
京都はあとふる企業認証（京都府）
S認証（（一社）ソーシャル企業認証機構）

取組の概要

- 新規就農者として障害者雇用を行った際に、障害への理解不足で当該職員が退職した経験から、相手の立場に立つことの重要性を認識し、その後、障害者雇用を本格的に開始。
- 社員4名のうち、障害者2名と元ニート1名を正規雇用し、全員に最低賃金以上を支給。
- 車いすや手押し車でも収穫体験ができるようにほ場を整備しているほか、障害者でも理解しやすい農作業マニュアルを作成するなど、障害者が働きやすい環境を整備。地域の福祉事業所や特別支援学校に野菜や花の種を提供し、共同で栽培を行っている。
- 職業訓練により正規雇用へステップアップした障害者職員が企業在籍型職場適応援助者の資格を取得し、若手障害者職員を指導。
- 地域の加工業者や販売業者と連携し、規格外野菜を活用した加工品の生産を開始。
- 自社による週に一度の飲食営業を開始し、収益向上や廃棄ロスの削減に貢献。



農園スタッフと実習生



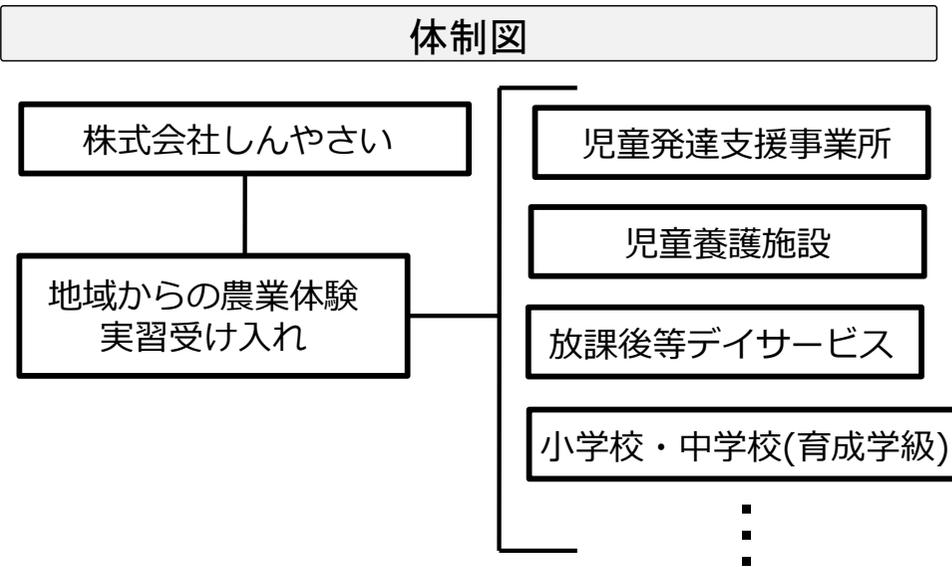
車いすでの収穫体験



各作業のマニュアル作成



京野菜と加工品



取組の成果

- 障害者を受け入れたことで、労働力不足が解消。障害者に配慮した作業の見える化をすることで、障害者以外の農作業も効率化。
- 近隣の荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大（平成27年:72a→令和4年:約300a）を図り、新たな品目を作付けできたことで収益が向上。
- 障害者だけでなく、多様な人々の農業体験・実習の場となっている。
- 障害者に配慮した職場環境や、作業の見える化を行うことにより、障害者以外の作業の効率化も実現。

所在地▶農園：京都府久世郡久御山町西一口新道北46 / 事務所：京都市南区
 連絡先▶TEL:075-682-8622 E-mail:info@shinyasai.kyoto
 ウェブサイト▶<https://www.shinyasai.kyoto/>

【取組のプロセス】

平成29年

福祉サービス事業所からの申し出があったことから、施設外就労として連携を開始

平成30年

障害者雇用を開始。一度は失敗するも京都府の就農相談員からの紹介で継続

令和2年

代表が、農福連携技術支援者として認定

令和5年

京都府知事より
・障害者雇用優良事業所表彰
・優良勤労者表彰を受賞

今後の展望

きっかけ

京都市で新規就農し、九条ねぎ等の栽培を通じ、地域の福祉事業所との連携や障害者雇用により、生きづらさを抱えた人財の農業分野での活躍の可能性に気付いた

九条ネギをメインに多種多品目の野菜の生産にチャレンジ

- 就農当初、人手不足もあり、研修先農業法人の元同僚(障害者)を雇用したが、障害者への理解不足のまま接してしまい、半年程で退職。
- 2人目の障害者雇用時は、当事者の希望に寄り添い無理のない働き方(週1回半日勤務)でスタート、徐々に時間や日数を伸ばし、重要な戦力として勤務。

障害者目線の農福連携の取組を実践

- 拠点ハウスの男女別トイレの設置、特別支援学校からの実習の受け入れを皮切りに、地域のこども園・児童養護施設・小学校・中学校・高等学校・高等技術専門学校・大学・大学院・放課後等デイサービス・子ども食堂・ボーイスカウト等と連携し、収穫体験や職場体験実習を実施するなど、地域内交流を進めている。
- 地域の社会福祉協議会が主催する認知症カフェ利用の高齢者や身体障害者等に対し、車椅子や手押し車でも収穫体験ができるよう配慮。

障害者等を積極的に受け入れ、雇用条件充実のため法人化

- 地域の廃業した銭湯を活用し、週に1度の規格外野菜を多用したランチ営業をスタート、農作業体験だけでなく、調理実習や接客体験もプログラムに追加。
- 障害のある社員が、企業在籍型職場適応援助者の資格を取得、自身の経験も踏まえ、同じ立場で支援(ピアサポート)する取組をスタート。
- 障害者等が自身の経験を活かして、障害者雇用セミナーやシンポジウム、ニート・ひきこもり支援の交流会等で積極的に登壇、体験談等を話すことで様々な業種での理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創出につながっている。

農福連携の推進、ロールモデルになる

- 農福連携の取組についてPRし、販路の拡大を図ると共に、障害福祉サービス事業所とのコラボ商品(加工品)を開発、ノウフクJASやGAPの取得を目指す。
- 障害等のある社員が、支援を受ける立場から支援する立場へキャリアアップを図り、農業分野でのロールモデルとして、他の農業者や地域での農福連携の推進を目指す。



福祉サービス事業所と九条ねぎの定植作業



特別支援学校からの実習受け入れ



京都市農福連携啓発マンガ



実習生と一緒にマルシェでの販売



新規就農後、自ら就労継続支援A型事業所を設立し、障害者に農作業を安定的に担ってもらうことで農地面積を拡大するとともに、利用者の将来の就農を目指す。

基本情報

- 所在地：岡山県岡山市
- 団体名：株式会社おおもり農園
- 選定表彰：－
- 主力商品：いちご・冷凍いちご／香料・着色料不使用のカクテル用シロップ／業務用いちごピューレなど
- 取得認証等：ノウフクJAS（令和3年取得）、認定農業者

取組の概要

- 平成14年にいちご農家として新規就農し、平成23年にはNPO法人杜の家及び就労継続支援A型事業所「杜の家ファーム」を設立。現在、障害者約18名のうち6名から10名が施設外就労でいちご栽培等を行う。
- いちごは年間作業時間が特に長い作物であり、夫婦二人の作業では限界があったが、育苗から収穫までの期間に障害者の特性に応じた作業を振り分けることで、苗の生産から株の手入れや防除も行うことが可能となり、規模拡張と労働時間の短縮を実現。



収穫前のいちご

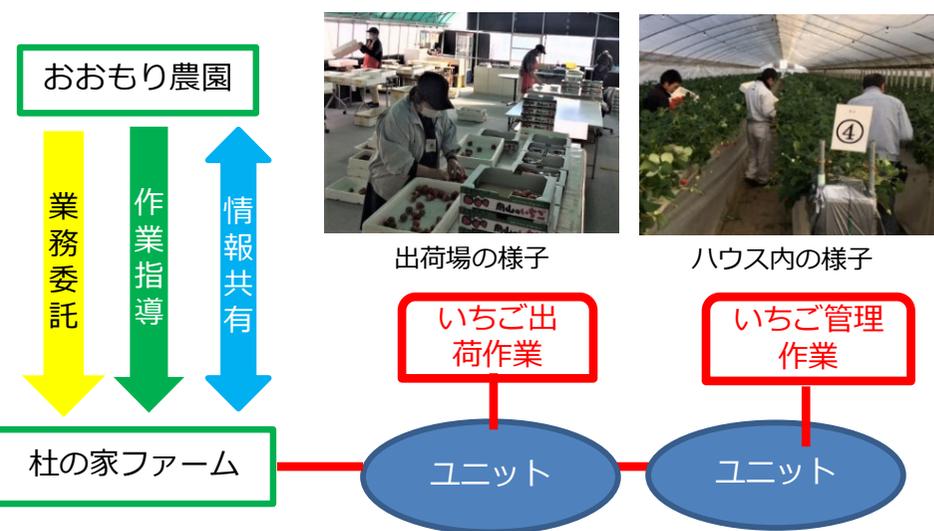


いちご植え付け作業



パック詰めされたいちご

体制図



取組の成果

- 自らが障害福祉サービス事業所を設立することで、作業者を安定的に確保できるようになり、作業負担が軽減。休日を取得できるようになった。
- 経営に余裕が生まれた結果、離農した農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積が約35aまで増加。
- 作業の見える化によって、異常発生時の問題点が明確になり、指示が障害者に的確に伝わるようになった。
- いちご栽培の安定的な請負とその他の施設外就労との組み合わせにより、令和4年度の平均賃金月額は88,000円を超え、県内就労継続支援A型事業所の平均（86,271円）を上回る。

所在地 ▶ 岡山市中区兼基111-1

連絡先 ▶ TEL: 086-279-8391 E-mail: info@npomori.com

ウェブサイト ▶ <https://omorifarm.jp/>

【取組のプロセス】

きっかけ

中国四国農政局主催のシンポジウム「クローズアップ農の福祉力」に参加し、障害者の受入れを決意

平成14年

小さな農家は親の介護や自身の体調不良で栽培規模の縮小や経営そのものの存続が難しいことを実感

農業の開始

- 平成14年 岡山市中区にいちごハウス10aを竣工し、兼業農家として事業開始。
- 平成15年 いちごと葉物野菜で専業農家となる。



いちご苗の手入れを行う利用者

平成21年

農林水産省 都市農業機能発揮対策事業・福祉農園地域支援事業の活用

農福連携を開始

- 平成21年 障害者施設より施設外就労の受入を始める。
- 平成23年 就労継続支援A事業所杜の家ファームとして障害者雇用を開始。



いちご株管理を行う利用者

令和元年

平成30年 西日本豪雨災害

いちご農家として地域の農地を受け入れ

- 平成27年 高齢による離農いちご農家施設受け入れ。
- 平成28年 都市農村機能発揮対策事業及び福祉農園地域支援事業によるいちご栽培施設完成。
- 平成30年 西日本豪雨により被災し、一部復旧を断念、コロナ禍により葉物野菜生産から撤退。
- 令和3年 いちごでのノウフクJAS取得。
- 令和4年 新たに取得した荒廃農地を開墾し経営規模を拡大。



音声選別機による選果作業

今後の展望

令和3年度 日本農林規格ノウフクJASを取得

将来の地域農業の後継者を育てる

- 障害者にはただ作業をしてもらっただけでなく、将来の地域農業の後継者になれるよう様々な農業技術について指導を実施。
- 農福連携の活動を多くの方に知ってもらうことで農業の発展に寄与したいと考えている。



パック詰め作業



障害者の周年就労が可能な水耕栽培に取り組むとともに、障害者や高齢者、地域住民が集えるコミュニティセンターの運営や、交通手段を持たない高齢者への無料送迎、地域のお祭りの復活など様々な地域貢献活動を実施。

基本情報

- 所在地：大分県大分市
(福祉農場コロニー久住所在地：大分県竹田市)
- 団体名：社会福祉法人博愛会
- 選定表彰：
平成18年 大分合同新聞文化賞
(株)大分合同新聞社主催
平成24年 毎日社会福祉顕彰
(毎日新聞(株))
平成27年 藍綬褒章 (理事長個人 内閣府)
令和3年 愛護福祉賞 ((公財)日本知的障害者福祉協会)
- 主力商品：お米、サラダ野菜、ドレッシング、ジャム、漬物等
- 取得認証等：6次産業化認定事業者

取組の概要

- 障害者が周年就労可能なサラダ野菜の水耕栽培等に取り組むとともに、生産した農産物を活用した食品加工場やレストラン、地域コミュニティセンター等で、障害者の特性に合った活動場所と就労先を創出。
- 職員や利用者が主体となり、地域住民の高齢化により10年以上開催されていなかった地域のお祭りを「都野夏まつり」として復活させるなど、地域貢献事業等にも積極的に取り組む。
- 交通手段を持たない高齢者を対象とした無料送迎車をNPO法人や他の社会福祉法人と連携して巡回させ、地域コミュニティセンターでの入浴の機会や、地域食材を利用した弁当の提供などを実施。



水耕栽培による野菜生産



「都野夏まつり」の様子

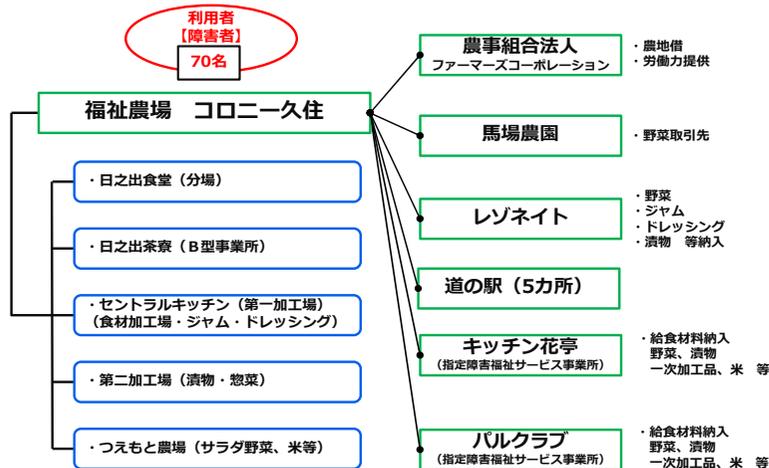


セントラルキッチンでの農産物の加工



生産した農産物を利用した無料惣菜バイキング

体制図



取組の成果

- 障害者の特性に合った活動・就労先の創出、周年就労が可能なハウスでの水耕栽培品目への取組等により、工賃の向上及び就労者が増加。
- 農産物加工では6次産業化と「日乃出」ブランド化を行い、直営レストランなどへの食材提供とも相まって、農福連携関連の売上が大幅に増加。

	取組当初	令和5年 (見込み)
・年間工賃(千円)	36	3,700
・年間従事障害者(人)	60	520
・売上総額(千円)	3,252	37,300

所在地▶大分県竹田市久住町大字有氏896番地14(福祉農場コロニー久住)

連絡先▶TEL:0974-77-2344 E-mail:pal-2941@oct-net.ne.jp

ウェブサイト▶https://hakuai-oita.com/

【取組のプロセス】

昭和50年

利用者と職員は農作物を自分達の手で育て、収穫する喜びを知る。当初の主力生産品となったトマトは1日の出荷量3トン規模に

きっかけ

「農福連携」という言葉がない昭和50年に「知的障害の方にとって大自然の中で、季節の移ろいを肌で感じることができる農業が最も心身の安寧につながる。」との考えで、竹田市久住町に「生産する福祉」を目指して入所授産施設「福祉農場コロニー久住」を開設

農産物加工場（漬物加工）が完成

- 当初の主力生産品である高原トマト、白菜、大根、高菜等の農産物を漬物加工品として商品化。
- ジャムやドレッシングの製造販売も開始し、地元の道の駅や直営店舗での販売や、法人内外のレストランや給食センターに提供。



漬物の製造シールを張る利用者

平成9年

高齢・過疎化の進む地域に対し、農産物を活かして地域貢献事業として何かできることは？

コロニー久住分場「日乃出食堂」を開設

- 「み～んなが元気に集う食卓」をコンセプトに、地域の中心地に「障害者、高齢者、地域住民が気軽に集える健康レストラン」としてオープン。
- 施設農場や地元の新鮮食材を加工しお惣菜として提供する「おばんざい」が大好評に！



古民家の趣の日乃出食堂の内観

平成28年

人口減少により飲食店が衰退していく中、皆が憩える場所をつくり町を元気づけたい！

地域交流サロン「日乃出茶寮」（就労継続支援B型事業所）を開設

- 「ひとりになっても安心して暮らせる町づくり」を目指し、障害者支援施設が運営するコミュニティサロンでは高齢者、障害者、こどもたちが天然温泉や食事、カラオケ、各種教室等を利用できるよう整備。
- 館内のホールではコンサートや大衆演劇公演を開催するほか、こども食堂等のイベントを毎月開催。



日乃出茶寮の舞台・ホール内観

令和2年

NPO法人ククルを設立。日乃出茶寮を拠点として地域高齢者の無料送迎活動に取り組む

今後の展望

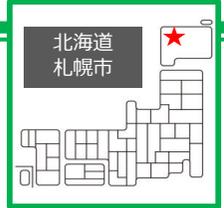
博愛会の職員・利用者が下支えしながら、地域の住民を巻き込んで「みんなが主役」の夏祭りを復活開催

～ 町をもっと元気に、にぎやかに ～

- 学校、病院など公共施設が集中している「コンパクトシティ」の利点を活かし、法人の各施設が地域社会と有機的、人材的に連携し、地域活性化に向けた取り組みを進める。
- 「町をもっと元気に、にぎやかに」をモットーに、障害者が地域の一員として自分らしい暮らしをしながら町の活性化に携わるといふ地域共生型の社会を目指す。



日乃出茶寮でのイベントの様子



自社農場での農作業やJA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者が実施。

基本情報

- 所在地：北海道札幌市
- 団体名：株式会社ファーストマインド 多機能型事業所ぴ〜か〜ぶ〜WORKS
- 選定表彰：－
- 主力商品：ミニトマト、キクイモ、ピーマンなどの野菜約20品目、乾燥ミニトマト、キクイモチップスなどの加工食品



自社農場の野菜



自社加工食品

- 取得認証等：－

取組の概要

- 児童発達支援等の卒業生の就労先として、農業に参入し、自社農場における農作業のほか、JAや地元企業と連携した農作業受託、水路や農道の掃除、高齢者宅の草刈りや除雪作業にも積極的に参加し、地域との交流を深めている。
- 就労継続支援A型事業所における施設外就労では、農作業や夏季限定野菜加工場のほか通年で就労できる食品仕分け作業も確保。就労継続支援B型事業所では除草などの作業を受託。
- 農福連携の取り組みに興味を持った、地域外の飲食店や不動産業者、スキー場などからも農産物販売等の申し出があり、販路が拡大。



施設外での農作業



除雪作業風景



野菜の出張販売



施設利用者メンバー



取組の成果

- 就労継続支援A型事業所では、責任感や、やりがいを持てるように、リーダー制度や作業スキルにおけるステップアップ制度を設けて賃金に反映。
- 就労継続支援A型事業所利用者20名の平均賃金月額は10～15万円で、北海道平均を上回る給与を実現。これまで2名が障害者枠の一般就労に移行。
- 就労継続支援B型事業所の利用者18名の平均工賃月額も約3万円と北海道平均を上回っており、4～6万円の工賃を受け取る利用者も増加。

所在地▶北海道札幌市手稲区前田7条10丁目6-12
 連絡先▶TEL:011-215-7493 E-mail:pikabu.maeda@gmail.com
 ウェブサイト▶<https://www.pi-ka-bu.jp/>

【取組のプロセス】

令和元年

高齢農家から農地
借り受けの依頼

きっかけ

児童発達支援及び放課後等デイサービスを卒業した利用者の就労先を確保するため、就労継続支援事業所を開設

自社農場の農地拡大

- 営農困難となった高齢者から、農地（35a）を借り受け。
- 「キクイモ」及び「加工用ミニトマト」の栽培を拡大し賃金・工賃の向上を図る。



自社農場の風景

令和2年

事業を安定的に継続
していくために、施設外就労先を探す

施設外就労先を開拓

- 利用者の就労安定化や賃金・工賃向上のため、農作業ができる施設外就労先を探す。
- JA関連施設やセコマグループの株式会社北栄ファームと契約し、就労の安定化を実現。



施設外就労の様子

令和3年

規格外野菜の活用と
デイサービスで提供
する食材調達を模索

NPO法人フードバンクイコロさっぽろとの連携開始

- 事業所で使用する食材をフードバンクから、事業所で収穫した規格外野菜等をフードバンクへと相互提供する関係を構築。
- 生産した野菜の行き先が見えるため、利用者のやりがいにつながっている。



フードバンクへ野菜提供

令和5年

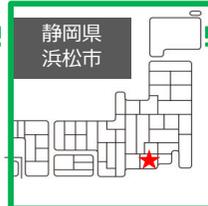
今後の
展望

もっと活躍の場を

- 「福」の拡大として、子ども食堂を開設し、地域との繋がりを拡大。
- キッチンカーを購入し、独自イベントや他地域を含めた様々なイベントに参加することで、利用者の賃金・工賃向上を目指す。
- 就労継続支援A型事業所から一般就労へ繋げるため、連携企業の増加を図る。



イベント出店の様子



家族経営の農家が農福連携の取組を行うことで、栽培面積の拡大、労働力不足の改善、収益の向上などを実現し、農業経営が安定化。

基本情報

- 所在地：静岡県浜松市
- 団体名：ひらまつファーム
- 選定表彰：－
- 主力商品：ミニトマト、レタス、とうもろこし等
- 取得認証等：認定農業者



ひらまつファームとスマイルベリーのメンバー

取組の概要

- 地域の福祉事業所、NPO法人スマイルベリー、多機能型事業所ひだまりのみちへ野菜の栽培から収穫に至るまでの農作業を委託。
- 新たな治具の開発、各作業ごとのマニュアル作成など、環境を少し整えることで作業効率が飛躍的に改善。
- 農場での作業を障害者の個別支援計画に明確に位置付けることで、障害者一人ひとりの成長につながるよう支援。
- 農園を近隣の幼稚園や福祉事業所の利用者にも開放し、収穫体験を行うほか、NPO法人スマイルベリーが所有するカフェや加工場へ生産物を提供するなど、多方面での連携を実施。



定植作業の治具

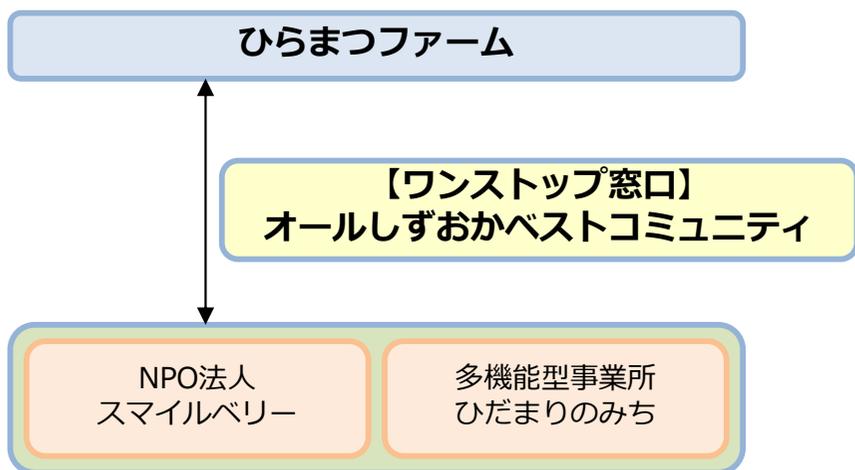


定植機での作業風景



ミニトマトの脇芽取り作業

体制図



取組の成果

- 農福連携に取り組むことで収益向上・栽培面積拡大につながると同時に時間的な余裕も生まれた。
耕作面積：令和3年 1.5ha → 令和4年 1.8ha
売上高：令和3年 1,300万円 → 令和4年 1,560万円
- 受入障害者数は2年間で13名となっており、今後も受入人数を増加させる予定。
- 治具などを導入することにより、1名の定植時間が220本/時間から、280本/時間となるなど、作業効率が大幅に改善。

所在地 ▶ 静岡県浜松市北区新原2040-3

連絡先 ▶ TEL:053-582-7272 E-mail:hf-10ma10@outlook.com

ウェブサイト ▶ <https://fresh-yasai.com/>

【取組のプロセス】

令和3年

きっかけ

新型コロナウイルスや資材費の高騰、局地的豪雨の影響など、農業経営に行き詰まり、県西部農林事務所に相談したところ、農福連携の提案を受けたことから障害者の受け入れを開始

農福連携の取組

- 家族経営で行き詰まっていたが、農福連携に取り組むことで、農業経営の改善に成功。
- 栽培面積がミニトマト1.5倍、とうもろこし1.3倍、レタス1.5倍に拡大。
- 栽培面積が増加したことで、委託先の福祉事業所も増加。

地域との連携

- 地元の教育機関とも連携し、今後農業を担っていく学生に農福連携の現状、課題を知ってもらう機会を創出。
- 今までは廃棄していたミニトマトを、連携先のNPO法人スマイルベリーが引き取りカフェで提供するキッシュのトマトソースに活用。

事例発表

- 令和5年2月に静岡県が主催した「農福連携シンポジウム」において、「0からの農福連携」と題して農福連携の取組を発表。

農福連携の広がり

- 自身の成功により、地域で新たに農福連携を開始した事例があり、農福連携コーディネーターが順番待ちとなるほど地域で農福連携への関心が高まっている。自身の農業経営を見直すきっかけとなった農福連携が、地域にもっと広まり、農業経営に行き詰っている農業者の助けとなる存在を目指す。

令和5年

今後の展望

新型コロナウイルス、資材高騰、局地的豪雨などの影響

農福連携の取組を開始したことで、農業経営が改善され、耕作面積が増加し、これに伴って受け入れる障害者の人数も増加



ミニトマトの脇芽取り



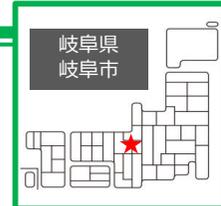
廃棄トマトを利用したキッシュ



シンポジウムでの発表



レタスの収穫体験



農業分野で障害者が活躍できる場の創出を目指し、直接雇用型の農福連携事業に取り組み、障害者のいちご栽培技能及びコミュニケーション能力を高める。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：全国農業協同組合連合会
岐阜県本部
- 選定表彰：－
- 主力商品：いちご（品種：美濃娘）
- 取得認証等：－



収穫の様子



美濃娘

取組の概要

- 通年でいちご栽培に従事する障害者を直接雇用。いちごは岐阜県ブランドいちご「美濃娘」を栽培し、地産地消の取組に貢献。
- 参画しているぎふ農協岐阜市いちご部会の基準に基づいた栽培・防除・収穫・パック詰めを行い、部会員と同一基準で出荷を実現。
- 連携先のいちご農家で農作業実習を行い、人材育成と農家への農福連携を促進。
- 株式会社JAぎふはっぴいまるけと連携し、相互に農作業体験実習を実施。
- 特別支援学校や障害者職業センターの実習生を受入れ、いちご収穫体験を実施。



親株の定植作業

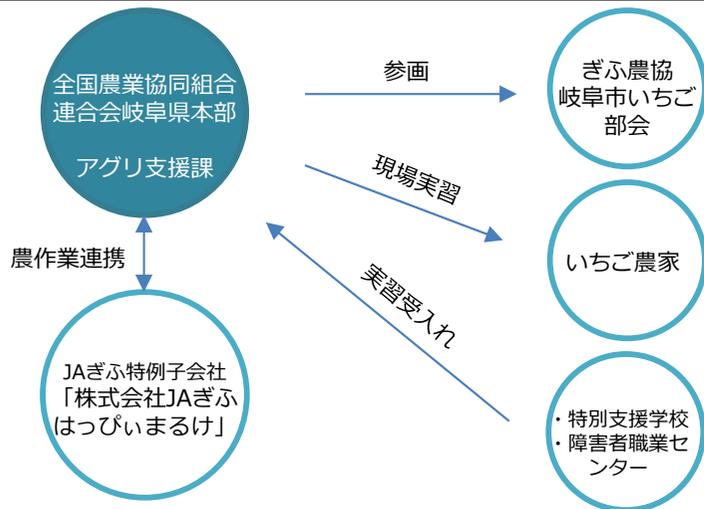


パック詰め作業



「はっぴいまるけ」との連携活動

体制図



取組の成果

- 栽培の知識・技術向上に伴い、栽培面積が5a（令和3年）から10a（令和4年）と、2倍に増加。
- 市場出荷パック数が約6,000パック（令和3年）から14,600パック（令和4年）と、2倍以上に増加。
- 農作業実習では普段と異なる環境下で作業を行うことで、自立支援と雇用創出に繋がった。また、受け入れ先の農家からも農福連携に対して前向きな意見が得られた。

所在地 ▶ 岐阜県岐阜市宇佐南4丁目13番1号

連絡先 ▶ TEL:058-214-2431 E-mail: zz_gf_agurishien@zennoh.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.zennoh.or.jp/gf/einou/noufuku.html>

【取組のプロセス】

令和3年

アグリ支援課
新設

障害者雇用に向け
た環境や受入体制
の構築

きっかけ

少子高齢化による農業分野の人手不足の解消と、SDGsの理念実現を目指し、取組を開始

障害者雇用に向けた体制づくり

- 管理者・職場適応援助者の支援スキル向上に向けて、厚生労働省認定の「企業在籍型職場適応援助者養成講習」や県認定の「岐阜県農業ジョブコーチ」育成講習を受講。

作業の見える化

- 日々の作業をホワイトボードに記入して、作業者に説明。
- 判断や精度がばらつきやすい作業（防除・芽かき等）も安心して取り組めるよう、作業確認のため一人ずつ作業動画を撮影し、口頭では伝わりにくい留意点を確認。

栽培スキルの向上

- いちご農家で農作業実習を実施し、栽培管理、収穫方法、効率的なパック詰め手法などを学習。

体調管理・メンタルケア

- 定期的に個別面談やメンタルミーティングを開き、精神状態の確認とケアを行い、安定就業に繋げている。

農福連携の普及活動

- 障害者が集荷所へいちごを持ち込み、他の農家と日常的に交流することで、農福連携への理解醸成に取り組む。
- 大手量販店に農福連携特設コーナーを設置し、商品販売することで農福連携をPR。

農家、雇用主の理解醸成と関係機関との連携

- 障害者雇用の理解促進を図るため、外部と交流する機会を増やす。
- いちご農家での作業実習を通じて、障害者のいちご栽培技能・知識向上やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、農家に障害者雇用の選択肢を広げていく。
- 県と連携した農福体験ツアーや大学との連携による収穫作業体験などの機会を作り、農福連携の取組を広める。

令和4年

ジョブコーチ支援
実施

はっぴいまるけ
と連携農作業開始

令和5年

大手量販店で
農福連携特設コー
ナーを設置

外部農作業実習

今後の
展望



全員で作業動画を確認



いちごを農家訪問し、効率的なパック詰め手法を学ぶ



量販店に農福連携特設コーナーを設置し、商品販売

行政及び関係団体と連携し、最低賃金で働けない全ての人や、生き辛さを抱えた方々（ひきこもり状態にある者、触法者など）への支援を通じ、地域の課題解決に貢献。



基本情報

- 所在地：高知県安芸市
高知県吾川郡いの町
- 団体名：一般社団法人こうち絆ファーム
多機能型事業所「TEAMあき」就労継続支援B型事業所「TEAMいの」
- 選定表彰：
 - ・令和4年度ディスカバー農山漁村の宝
中国四国地区 奨励賞
 - ・第13回地域再生大賞 優秀賞
 - ・第38回高知県地場産業大賞
高知県地場産業賞
- 主力商品：ナス、オクラ、白芽芋、冬野菜
- 取得認証等：認定農業者

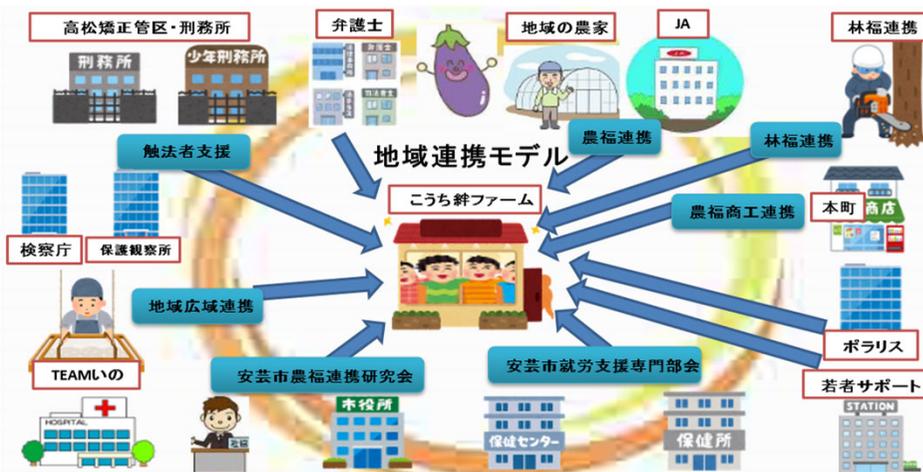
取組の概要

- こうち絆ファームは、安芸市農福連携研究会の発展形として、生きづらさを感じる人たちに通年で仕事を作るために令和元年に設立された福祉事業所として自らナスやオクラの栽培・収穫を実施。
- 事業所では、こうち絆ファーム以外に近隣の25の農家から収穫したナスやオクラの袋、箱詰めも行っており、作業者に合わせた就労体系で1箱200円の出来高制で請け負う。
- 20代～60代までの生きづらさを抱えた方々（障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等）63名が2か所の事業所で作業。
- 農閑期（7月～9月）にはハウスをユニバーサル農園として市民や関係機関に開放し、ナス狩り収穫体験を実施。特別支援学校や放課後等デイサービスの子供たちに対する食育としても貢献。



ユニバーサル農園での収穫体験 ハウス内での作業をする利用者 ナスの袋詰め作業をする利用者

体制図



取組の成果

- 生きづらさを抱えた多様な人材を受け入れ、3年間で一般就労に8名が移行し現在も定着。過去にひきこもり状態であった1名は新規就農として令和4年度から経営を開始。
- ふるさと納税の返礼品や企業からの発注が多くなるにつれ、より良い品質の良いものを提供しようと栽培管理、職員、利用者のモチベーション向上につながっていることもあり、開始した当初（令和2年）は、平均工賃月額が21,985円であったが、現在では31,286円となり、当初より約4割増加している。

所在地 ▶ 高知県安芸市本町3丁目10-35

連絡先 ▶ TEL: 0887-37-9071 E-mail: aki@kochi-kizuna.com

ウェブサイト ▶ <https://kochi-kizuna-farm.com/>

【取組のプロセス】

大阪府からIターンで農家を目指し高知県へ

平成26年

きっかけ

農業経営規模の拡大に伴い、障害のある親子を雇用したことから農福連携の取組が開始



ナスの袋詰め作業

令和元年

一般社団法人こうち絆ファームを設立

- 高知県は全国でも自殺率が高く、その対策が喫緊の課題であったことから、平成25年に高知県安芸福祉保健所が「ここから東部ネットワーク会議（自殺予防）」を立ち上げ、87の機関が連携、受け入れ先の農家として関わる。
- 自殺以外の課題にも対応できる体制を整えるため、平成30年に安芸市農福連携研究会が発足され、生きづらさを感じる人の雇用先を増やしたいとの思いから、令和元年に一般社団法人こうち絆ファームを設立。

自社農園での生産スタート（施設園芸ナス15a）

令和2年

多様な連携をスタート

- 多機能型事業所TEAMあきを開所し、特別支援学校との連携、法務省と連携した触法者の受け入れ、高齢者通所サービス事業所との連携を開始。

自社農園の規模拡大（施設園芸ナス50a）

令和3年

官民との農福商工連携がスタート

- 安芸市商工観光水産課が策定した安芸市中心商店街振興計画に参加し、現状の課題や地域資源の洗い出し等についてワーキンググループで検討。
- 安芸本町商店街で「軽トラマルシェ」を開催。大鍋でふるまう「ナス煮」会を開催し地域活性化に貢献。
- 厚生労働省 生活困窮者モデル事業開始（地域連携モデル）。

高松矯正管内の矯正施設との意見交換会スタート

令和4年

県からの委託事業がスタート

- 農業者と就労継続支援事業所の農作業受委託のマッチングの支援活動。

高知県伊野町の依頼により農福連携を伊野町でスタート

令和5年

更なる連携がスタート

- 伊野町との連携による就労継続支援B型事業所TEAMいの開所
- 清水寺住職より仏教界からの協力の申し出があり、自殺予防の取組の拡大として「仏福連携」をスタート。

農福連携を通じて共生を目指し地域づくりに繋げる

今後の展望

各地での就労継続B型事業所の開設

- 県域での水福連携の推進（令和6年度開始）。
- 室戸市との連携によるTEAMむろと設立委員会設置。
- 香美市・香南市・南国市との連携による農福連携コンソーシアム設立。



冬野菜の種まき・苗おこし作業



軽トラマルシェ ナス詰め放題

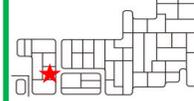


ナスの収穫体験



清水寺との「仏福連携」

生産者の高齢化等により産地の維持・継続が懸念される中で、自社での原木椎茸栽培のほか、地域の約600軒の生産者から原木椎茸を買い取り、福祉施設に委託して乾燥椎茸等に加工する農福連携を推進することで、地域の課題解決に取り組む。

宮崎県
高千穂町

基本情報

- 所在地：宮崎県西臼杵郡高千穂町
- 団体名：株式会社 杉本商店
- 選定表彰：
 - 令和2年 サステナアワード 2020大賞
(農林水産省、消費者庁、環境省)
 - 令和3年 サステナアワード 2021みどりの食料システム推進賞 (同上)
 - 令和4年 宮崎県中小企業大賞 (宮崎県)
 - 令和5年 第24回グリーン購入大賞農林水産大臣賞 (グリーン購入ネットワーク)
- 主力商品：本格椎茸粉、椎茸どんこ等
- 取得認証等：ISO22000認証登録、宮崎県未来成長企業認証、有機JAS認証、GFPアンバサダー認定

取組の概要

- 農家の高齢化により椎茸の駒打ち等の作業負担が大きくなっていた中で、椎茸の原木栽培及び加工を福祉施設へ委託することで、障害者の所得向上が実現。現在は委託先の福祉施設が6団体7施設に拡大。
- 地域の約600軒の生産者からも原木椎茸を買い取り、地域の生産者と福祉施設を繋ぐことで、高齢農家の作業負担軽減と障害者の働く場の創出に寄与。
- 農福連携により生産された原木椎茸はサステナブルな取組として海外で高く評価され、令和5年10月時点で累計23か国へ輸出。



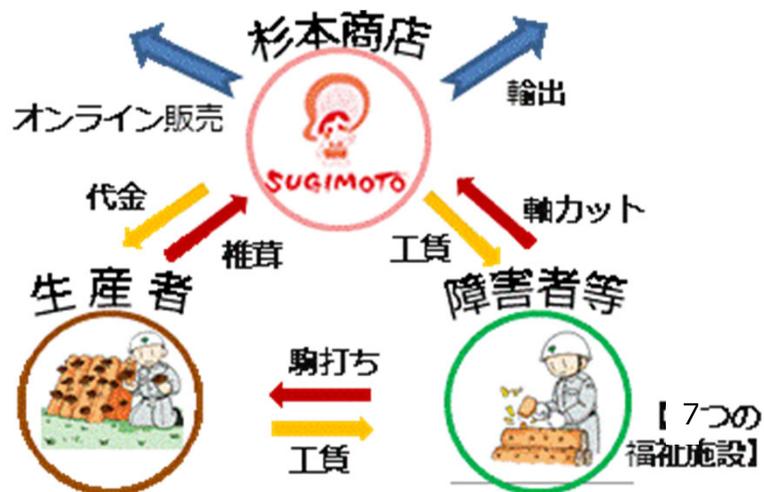
椎茸の駒打ち作業風景



無農薬原木栽培される椎茸

オンライン販売
(本格椎茸粉と椎茸どんこ)

体制図



取組の成果

- 障害者の特性に合った作業分担と就労環境への配慮により、出勤率が向上し、賃金も増加している。
- こうした成果により、委託する福祉施設も拡大し、施設外就労者数の増加や輸出額の増加にも繋がっている。

	平成30年	令和5年 (見込み)
・施設外就労者数 (人)	187	604
・障害者平均工賃月額 (円)	9,692	16,856
・輸 出 額 (万円)	280	1,500

所在地 ▶ 宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井458-28

連絡先 ▶ TEL:0982-72-3456 E-mail:kazuhide@sugimoto.co

ウェブサイト ▶ <https://sugimoto.co/>

【取組のプロセス】

ものづくり補助金を活用し、設備を更新

平成29年

九州産本格椎茸粉発売、障害者支援施設2カ所目が栽培と作業をスタート

令和元年

宮崎県特用林産物輸出促進対策事業の活用

令和3年

地元小学校での食育授業開始

令和4年

県内障害者支援施設6事業所（7作業所）と協業。

特用林産物×福祉×輸出の取り組みが評価され、ノウフク・アワード2023フレッシュ賞のほか、グリーン購入大賞・農林水産大臣賞も受賞

今後の展望

きっかけ

椎茸生産者の高齢化と干し椎茸の軸切作業における人材不足の中、障害者支援施設の職員から作業の依頼があったことから、農福連携の取組を開始

地域未来牽引企業の認定を受ける

- 高齢生産者の負担軽減のため 自伐による原木供給事業を開始。
- 原木を杉本商店が供給し、福祉施設が植菌から出荷までを行う全作業委託を開始。
- 将来の有機農産物需要の増加と差別化を考え、「杉本商店有機出荷者協議会」を設立。
- 世界で唯一、原木栽培椎茸でKOSHER認証（ユダヤ教の食品規定に基づいた生産プロセスが順守されていることを証明する認証制度）を取得。
- 初の海外展示会（FOODTAIPEI, BERLIN FOOD WEEK）へ出展し、海外市場では持続可能性が重要であることに気づく。



地域未来牽引企業認定証

年間輸出高が4,500万円を超える

- 作業量増加に伴い、新たに県内2か所の福祉施設に椎茸の軸切作業を委託。
- コロナ禍の影響でオンライン商談が中心の中、動画を活用した情報発信で輸出事業が伸長。
- サステナアワード2020大賞、農林水産技術会議事務局長賞受賞。
- パウダー製造体制を強化、アシストスーツの実証実験スタート、林野庁研修講師を開始。
- プラントベース市場への挑戦を始める。



輸出品商談会の様子

GFPアンバサダーの認証を受ける

- 全作業委託する福祉施設が3か所、一部作業を委託する福祉施設が3か所に拡大。
- ASIAN CONFLUENCE（インドでの国際会議）に登壇（オンライン）。
- 持続可能な組織形成の為、「杉本商店幸せQC活動」開始。
- 海苔養殖で不要となったグラスファイバーポールを活用したアップサイクルな栽培をスタート。サステナブル☆セレクション三つ星認定。
- 在インド日本大使公邸にてイベントを開催。



GFPアンバサダー認証式

～生産者と共に、この地で働けることに感謝し、常にお客様の健康を願い、安全で使いやすい食材を開発し、提供し続ける～

- 販路拡大のために、世界最大のベジタリアン国、インドへの輸出に向けた商談を進める。
- 商品価値を高めるために、宮崎県を原木栽培椎茸における「世界最大の有機JAS拠点」とする。
- このため、現在、有機・非有機が混在している種駒を、令和12年をめどに全数有機に切り替えるとともに、有機JAS取得のための生産者講習の受講を促す。
- 上記の需要拡大とあわせて、供給拡大のための農福連携を進めていく。



関係者とともに未来を目指す



障害者、認知症高齢者、地域のボランティアなど様々な人の「働きたい」という「ひとりの想い」を大切に農福連携の活動を実践しており、農業や森づくりを通じて、障害者や高齢者、学生や子どもたちが繋がり、地域を元気にする輪が拡大。

基本情報

- 所在地：北海道石狩郡当別町
- 団体名：社会福祉法人ゆうゆう
- 選定表彰：—
- 主力商品：米、かぼちゃなど野菜4品目（野布瀬農園）、小鉢御膳（ぺこぺこのはたけ）、お弁当（東京大学U-gohan）



収穫した米・野菜



季節の小鉢御膳

- 取得認証等：—

取組の概要

- 重度障害、認知症、ひきこもり状態にある者等の就労ニーズや高齢化により離農する農家が多い等の地域課題に対応するため、令和元年に自社農園を整備。
- 利用者のほか地域住民や学生ボランティアとの協働で農業・林業に取り組んでおり、地域から活動が見えることで相互理解が深まっている。また、農園や森で開催するイベントは、地域住民との交流の場となっている。
- コミュニティ農園が隣接したレストランを開設し、地域の就労場所を創出するとともに、自社生産の米や野菜を使用した食事を提供。
- 東京大学の学食と連携し、自社の米・野菜を使用した弁当を販売。北海道の魅力と商品の背景にある農福連携の取組を学生に伝えている。



農作業の様子



子供たちとの交流



野布瀬の森イベント

体制図

<地域共生>

社会福祉法人 ゆうゆう

高齢者

認知症

学生

子供たち

生活介護事業所 によきによき

ソーシャルケアファーム 野布瀬農園

ソーシャルケアウッズ 野布瀬の森

就労継続支援B型事業所
ぺこぺこのはたけ（レストラン）

東京大学工学部 学食
北海道の米と汁 U-gohan東大正門店

取組の成果

- 農業イベントや林業研修などで年間約900名と交流。保育園、高校、大学などの教育機関から実習を受け入れ、連携を深めている。
- レストランでは、年間約900万円、学食では約1,300万円売り上げている（令和4年度）。
- 高等養護学校を中退してひきこもりの状態となっていた男性が、就労支援サービスである農業を通じて人との繋がりを経験し、農家へ一般就労を実現。

所在地 ▶ 北海道石狩郡当別町六軒町70番地18

連絡先 ▶ TEL:0133-22-2896 E-mail:info@yu-yu.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://yu-yu.or.jp>

【取組のプロセス】

平成17年

ボランティアセンターを卒業した障害児の就労先がない

きっかけ

社会福祉法人設立以前から運営していた障害児のレスパイトサービスなどを行うボランティアセンターを卒業した障害児の就労先がないという課題を聞き、農福連携の取組を開始

平成23年

美味しいお米が生産できる地域だが、高齢化など離農が多い

共生型コミュニティ農園「ぺこぺこのはたけ」開設

- 地域とのワークショップにおいて、「成長した障害児が働く場所がほしい」、「当別の主要産業は農業」、「外食施設がほしい」などの声を受け、コミュニティ農園（10a）と隣接するレストランを開設し就労場所を創出。



地域住民との交流

令和元年

地域の森林が手付かずのため荒廃進む

ソーシャルケアファーム「野布瀬農園」開設

- 重度障害、認知症、ひきこもり状態にある者等の就労ニーズに対して自社農園を検討し、営農が継続困難な農家から農地（5ha）を取得。令和元年にソーシャルケアファーム野布瀬農園を開始。



お米の収穫作業

令和3年

ソーシャルケアウッズ「野布瀬の森」開設

- 以前から冬期の仕事が少ないのが課題であり、冬期に薪づくりが行える林業を検討。
- 野布瀬農園に隣接する森（8.7ha）を購入し自伐型林業を開始。地域ボランティアの協力を得ながら森を活用したイベントを行うなど、交流の場としても活用。



森のイベント風景

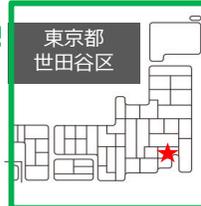
今後の展望

「支え手」「受け手」を超えた地域共生社会の実現へ

- 障害者や高齢者だけの制度やサービスに限定されない、だれもが頼り合って働ける場づくりを波及させ、地域共生を進める。
- 長期的な視点で、農地や森を整備・管理し続ける体制づくりの実現に取り組む。



農作業の風景



世田谷に誰でも参加できるインクルーシブな「夢育て農園」を開園し、知的障害者・発達障害者の教育法を日々進化させつつ、質の高い「農福×教育」事業を展開。

基本情報

- 所在地：東京都世田谷区
- 団体名：夢育て農園（株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテが共同で運営）
- 選定表彰：2023グッドデザイン賞（ニコニココイン）
- 主力商品：有機野菜、藍、みかん等
- 取得認証等：－



農園の様子

取組の概要

- 知的障害者・発達障害者を対象に、系統的認知能力強化と運動機能強化、主体性を育てる夢語りの時間と、農作業を組み合わせた「人を育てる畑青年コース」を週1回2時間半開講。播種・定植、施肥、収穫・調製、除草、鋤振り等の作業を通じて認知的発達・成長を図る。令和6年1月から小中高校生向け少年少女コースも開講。
- 多品目野菜の有機栽培を中心に、誰でも参加できるオープンデイを毎月開催しており、令和4年のみかん狩りには5200人が参加。ノウフクフェスタや地元での販売も実施しており、千葉大と共同で製造したみかんソースなどを販売。



修了式の集合写真



ニコニコみかんソース



授業風景



多様な人が参加

体制図

夢育て農園設立委員会
(株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテの合議体)

幹事会

農福コミュニティチーム

人を育てる畑チーム

栽培管理チーム

取組の成果

- 唾液から受講前後のストレス変化を計測し、高ストレス・心身不活発な状態で参加した受講者が、コース受講後には劇的にストレスを下げ、かつ心身を活性化させたことを明らかにした。
- 受講生に心理テストを実施し、明確な認知的成長を定量的に計測。受講生はできなかった作業ができるようになり、福祉活動へ積極的に参加するようになる者や、就労を実現する者も出てきている。令和5年11月には、高齢・障害・求職者雇用支援機構の発表会にて成果を発表。

所在地 ▶ 東京都世田谷区弦巻3-3-8

連絡先 ▶ TEL: 080-5088-6271 E-mail: maekawa@yume-sodate.com

ウェブサイト ▶ <https://yume-sodate.com/>

【取組のプロセス】

平成30年

夢や希望を育てる
傾聴伴走活動本格化

神奈川TV & TV埼玉で紹介

第5回夢への作戦
会議でお金が使えない原因を検討

クラウドファン
ディングの活用

高障機構職リハ：
夢育て & 認知POA
論文発表

ニコニコイン完成

夢育て農園開園 &
人を育てる畑開講

ストレス変化計測

認知発達計測

あおばエールとコ
ラポでお買物講座

Good Design
Award 2023受賞

高障機構職リハ：
ストレス & 認知発
達論文2本発表

少年少女コース開
講

X day
認知の学校設立

令和3年

令和4年

令和5年

今後の
展望

きっかけ

支援学校卒業後の学びの場がない「18歳の壁」に問題を感じ、「社会が夢を育て、夢が人を育て、人が社会を照らす循環づくり」を目指して設立

NPO法人設立

- NPO法人ユメソダテ設立。障害や生きづらさを抱える人など、すべての人の夢の語り場を作るイベント「夢への作戦会議」を開始し傾聴・伴走活動開始。

ニコニコイン開発

- 障害者がお金を自由に使い、買い物が楽しくなるようにニコニコインを開発。
- GOOD DESIGN AWARD グッドデザイン賞受賞。

畑での認知発達促進活動 & 地域との交流

- 夢育て農園を開園。知的発達障害があっても認知的に成長できることの実証を目指し、人を育てる畑コースを開講。
- 誰でも参加できるオープンデイを毎月開催。毎回参加者が増加し、地域交流会の様相となる。インクルーシブなコミュニティづくりに邁進。

農福×教育事業の更なる発展

- 農福連携による障害者の認知機能向上・自立促進の可能性を追求。障害者への教育法を伝えるワークショップを開催し認知発達促進法を普及。
- 誰もが夢を育み、目指すことのできる「夢を育てる社会」とするため、どんなに障害があっても、いくつになっても成長できる「認知の学校」設立を目指す。



農園の様子



Good Design賞受賞



多様な人が来園



畑での授業風景



障害の有無や年齢を問わず、すべての人たちが集い、人と自然、人と人との触れ合いの中でお互いを認め合い、生きがいを見つける地域のコミュニティを提供。園芸療法により利用者の主体性を引き出す。

基本情報

- 所在地：大阪府高槻市
- 団体名：特定非営利活動法人たかつき
- 選定表彰：－
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



「自分の畑」でミニトマトを収穫

取組の概要

- 介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を平成19年に開所。農地を借りて認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくり、健康維持、増進に向けた園芸療法を実施。
- 施設に隣接する農地（7a）に加えて、農作業に取り組む利用者の増加に伴い遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。
- 現在造園エクステリア企業との連携企画が進行。要介護高齢者がいる老人ホームやデイサービスで農園芸に取り組めるシステムのモデル作りを進めている。



建物に隣接した農地に「自分の畑」が並ぶ



収穫時に笑顔が弾ける



体を動かすことで運動機能向上・維持

体制図

特定非営利活動法人 たかつき

介護保険事業部

子ども事業部

園芸療法事業部

取組の成果

- 認知症で意欲低下が著しく動くことが少ない利用者が自分の畑を持ち、野菜の手入れをすることで、収穫の頃には畑までの往復歩行が習慣化。
- 利用当初に比べて歩く距離が増え、下肢筋力の低下を予防。
- 近隣の遊休農地を活用することで農地の維持に貢献。
- 介護高齢者数は2,400人（平成13年）から、5,580人（令和4年）へと増加。
- 「認知症ケア事例ジャーナル」の特集において、10ページに渡って、認知症介護の現場での園芸療法の取り組み方や有効性について発信。

所在地 ▶ 大阪府高槻市原2235番地

連絡先 ▶ TEL:072-689-9112 E-mail: information@npo-takatsuki.org

ウェブサイト ▶ <https://npo-takatsuki.org>

【取組のプロセス】

平成13年

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出

きっかけ

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出することを目的に施設と隣接する農地7aを借りて園芸療法を開始

介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を開所

- 園芸療法に取り組みめるように農地を借り、一部を農地転用して建物を建て、農地を活用して園芸療法を実施。
- 農地の整備は利用者の状態に合わせてレイズドベッドの導入、利用者個々の畑区画「自分の畑」の導入などを進め、利用者の主体性を引き出し、能動的に活動参加。



レイズドベッド
座った状態で白菜を管理

平成30年

地域の遊休農地を活用

農地面積は遊休農地と合わせて11.5a

- 当初は施設に隣接する農地のみ（7a）で農作業をしていたが、農作業に取り組む利用者が増加。デイサービスから少し離れた遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。



仏壇に飾る花を育て
自らが摘んで持ち帰る

令和4年

多世代交流により、誰もが楽しめる地域の場を創出

小学生の自然体験活動日を倍に増やす

- 遊休農地を地域の小学生の自然体験活動に利用。月2回地域の小学生40人が参加し、季節の野菜作りを中心とした農業体験をしている。
- デイサービスにある畑で地域の未就学児親子の自然体験活動を月3回実施し、子どもたちは農業体験をするとともにデイサービスの利用者と一緒に自然にふれあうことができている。



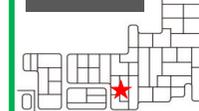
90歳がバケツ稲を収穫

今後の
展望

人生の最期の時間を有意義に幸せに過ごせる社会をつくるための輪を広げたい

隣の市のデイサービスで農園芸の取り組みを指導

- 農園芸ができる介護現場を増やすために、当法人のスタッフで共有している「園芸療法心得帳」を土台にマニュアルを作成する。このマニュアルを活用し、全国各地の高齢者施設で農園芸を実践できる仕組みを作る。
- 介護現場での農福連携の取り組みを通して、高齢化による農業の担い手不足と、それによる荒廃農地の増加といった社会課題を解決していきたい。



国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場作りを行うこと等により、罪に問われた者等の社会復帰を支援し、誰もが地域の一員として包摂される社会の実現を目指す。

基本情報

- 所在地：奈良県橿原市
- 団体名：一般財団法人かがやきホーム
- 選定表彰：奈良県保護観察所 感謝状
作田明賞 優秀賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－

一般財団法人 かがやきホーム
～Splendente Famiglia NARA～

「全ての困っている人を、家族の一員として受け入れ、一人一人が輝ける家」として命名

取組の概要

- 令和2年、奈良県が「奈良県更生支援の推進に関する条例」を制定したことを契機に、県の出捐により、県知事を代表理事とする財団法人として設立。法務省と連携して都道府県が罪に問われた者等の社会復帰を支援する仕組みは全国初。
- 刑務所出所者等を直接雇用し、五條市内の森林組合及び青ネギ生産組合等の協力により、同組合での就労研修（技術指導等）を実施。
- 居住する市内で実施されたクリーンキャンペーンやこども食堂への応援など、社会貢献活動に積極的参加。



五條市青ネギ生産組合(研修先)
で農業の技術指導を受ける

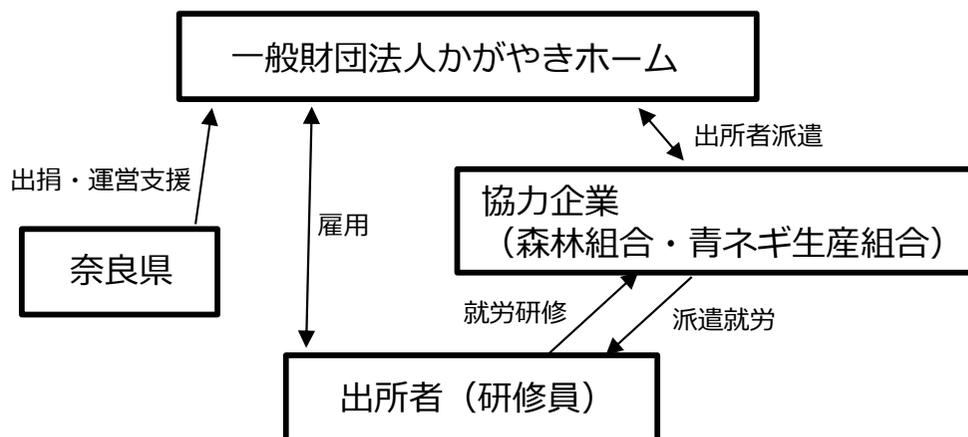


五條市森林組合(研修先)
で林業の技術指導を受ける



五條市市民集會に自主参加(社会貢献作業)

体制図



取組の成果

- 就労を通じて様々な人たちと交流することでコミュニケーションスキルの向上に繋がっている。
- 社会福祉施設において利用者と触れ合いながら作業実習の手助けをすることで共助・協働の意識が高められている。
- 令和2年9月に雇用した研修員1名が五條市森林組合に正式採用。
- 活動が認められたことで、近隣の休耕田を無償で借り入れることができ、ネギの栽培により荒廃農地の解消に貢献。

所在地 ▶ 奈良県橿原市大久保町320番地の11

連絡先 ▶ TEL:0744-33-9661

ウェブサイト ▶ <https://www.nara-kagayaki.com/>

【取組のプロセス】

令和2年

罪に問われた者等を支援するために地域において就労の場や住居を確保することを目的に設立

きっかけ

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場を作り出すことを目的として取組を開始

罪に問われた者等を支援するために設立

- 令和2年、「奈良県更生支援の推進に関する条例」に基づき、罪に問われた者等の更生支援に関する事業を行う財団として設立。
- 出所者を雇用し、就労の場を提供するのみならず、住居の提供や社会教育の実施により社会復帰を支援する。

令和4年

農業就労研修のため出所者2名の雇用

ネギ生産組合で農業就労研修を開始、荒廃農地の解消

- 令和4年10月から農業就労研修を開始。働きぶりが認められ、近隣の休耕田(29a)を無償で借り入れてネギを栽培。荒廃農地の解消による地域維持に貢献。
- 五條市森林組合において週に4日、木の伐採、草刈り、作業道の整備、植林などに従事して林業の技術指導を受ける。

令和5年

社会貢献作業を通じて福祉施設との交流を深め、同施設との連携を図る

地域との連携・社会への包摂と社会復帰

- 週に一度、社会貢献活動として福祉施設において空き缶の仕分け（リサイクル）や肥料作りを手伝うなどして、福祉施設との関わりを深めている。
- 研修員が社会福祉法人の農業部や研修先の福祉施設に採用される等、地域の農林水産業の担い手に。
- 現状では更生支援を実際に担う団体・機関が一部に限定されているため、派遣できる職種を広げ、充実させ社会に貢献することを目指している。

令和6年

研修員2名のうち、1名は福祉施設の職員として採用予定
他の1名は、農業就労研修を継続

研修員の自立を目指す

- 農業系学校のカリキュラムも踏まえて、農業従事者に必要な技能、資格取得（日本農業技術検定各級、農業簿記各級、農業機械士及び大型特殊免許などの資格取得）を目指し、将来は研修員の自立（起業・農業法人での就農等）に繋げる。

今後の展望



手塩にかけてネギを栽培



カットネギ工場パック詰め



五條市クリーンキャンペーンに参加(奉仕活動)



刈払機講習にて技術習得と資格取得



地域の福祉団体や農福連携を実施する企業と連携して、障害者や高齢者と協働した農作業、カフェ運営、新商品開発を実施。全国で珍しい農業高校における農福連携の取組。

基本情報

- 所在地：愛媛県伊予市
- 団体名：愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班
- 選定表彰：
 - ・令和2年ディスカバー農山漁村の宝 中国四国選定地区
 - ・えひめ地域づくりアワード・ユース 2023 最優秀賞
 - ・第74回日本学校農業クラブ四国大会 最優秀賞 等
- 主力商品：きくらげ鯛飯、きくらげつくね
- 取得認証等：－

取組の概要

- 地域との連携を目指した授業の一環として、「#伊予農福連携プロジェクト」を生徒が自ら立ち上げ。
- 伊予市内の福祉団体、ほっとネットいよしと連携し、障害者や高齢者に生き生きと仕事をしてもらうための「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を開催。地域食材使用のスイーツの考案、調理や盛り付けを行った。障害者・高齢者スタッフは接客担当として活躍。
- 地域の施設が所有する畑、プランターを利用し施設利用者とともに気軽に楽しくをモットーに農福連携を実施。
- 農福連携を進めている企業、株式会社和光ワールド、一般社団法人greensightと連携し、自然農法の米・きくらげ・大豆を栽培し、商品化・メニュー化を目指す活動を実施。



ほっとネットいよしと連携したカフェ

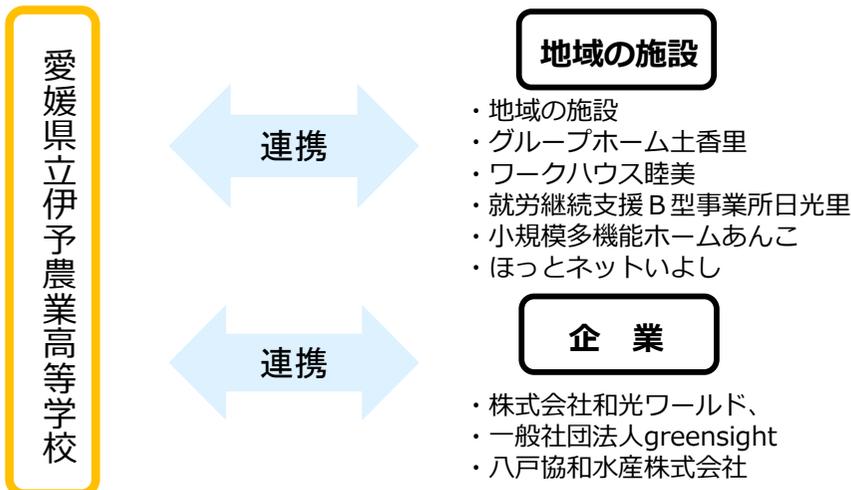


プランターでの野菜の栽培



ノウフクJASきくらげ商品化

体制図



取組の成果

- イベントの際には障害者・高齢者スタッフに、最低賃金を支払っており、「達成感を得た」「また参加したい」と好評。
- 施設利用者と一緒に野菜や花の栽培・収穫を行い、施設の食事に使用。
- ノウフクJASきくらげを利用したランチメニューを4種類考案し、令和5年9、10月の土日で1,000食を提供。また、青森県の水産企業と連携し農福連携商品の企画・製造を協議し、「きくらげ鯛飯」、「きくらげつくね」のレトルト食品の販売が決定。

所在地 ▶ 愛媛県伊予市下吾川 1 4 3 3
 連絡先 ▶ TEL:089-982-1225 E-mail:－
 ウェブサイト ▶ <https://iyo-ah.esnet.ed.jp/>

【取組のプロセス】

令和4年

きっかけ

農福連携を通して、地域課題である共生社会の実現に尽力したいとの思いから「#伊予農福連携プロジェクト」を立ち上げ

障害者や高齢者との関わり

- 伊予市内の福祉団体「ほっとネットいよし」と連携して「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を実施し障害者、高齢者スタッフと地域貢献。

地域の施設と農福連携活動（11月）

- 地域の施設が所有する空いている畑とプランターを利用して施設利用者とともに気軽に楽しく農福連携をキーワードに野菜や花を栽培。収穫した野菜は施設の食事に使用。

企業との連携

- 株式会社和光ワールドのきくらげ栽培作業に参加し、障害者と交流。
- 八戸協和水産株式会社と連携しノウフクJASの認証を受けたきくらげを使用した「きくらげ鯛飯」「きくらげつくね」のレトルト食品を開発。

農福連携活動の発表

- 農業高校の甲子園と呼ばれる日本学校農業クラブ連盟の競技会において、これまでの取組活動を発表し、四国大会で最優秀賞を受賞したことで全国大会に出場。

「#伊予農福連携プロジェクト」の拡大

- 医療・保険分野での農福連携活動。
- 園芸療法やユニバーサル農園の実施。
- ノウフクJASきくらげを使用した商品開発を継続。

今後の展望



「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」の様子



プランターでの野菜の栽培



道後のホテルにぎたつ会館でランチ販売

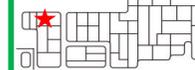


株式会社和光ワールド等と企業連携

地域食材使用のスイーツを考案し、カフェでの販売を実施

愛媛で唯一のノウフクJAS取得している（株）和光ワールドのきくらげの普及活動

道後のホテル「にぎたつ会館」と連携しきくらげ使用メニューを4種考案



障害者福祉事業を行う中で、障害者を企業の戦力として定着させたいという理念のもと、慢性的な人手不足に陥っていた水産加工会社を事業承継し、人手不足解消と障害者が戦力として定着する新たな分野を創出。

基本情報

- 所在地：福岡県福岡市
- 団体名：一般社団法人 社会福祉支援協会
- 選定表彰：令和2年 福岡市環境行動奨励賞（福岡市）
- 主力商品：冷凍魚切り身（調理前）、冷凍魚フライ（調理前）、冷凍焼き魚（調理済）
- 取得認証等：有機JAS、ISO22000



冷凍魚切り身（調理前） 冷凍魚フライ（調理前） 冷凍焼き魚（調理済）

取組の概要

- 障害者の作業を箱折り等の軽作業から徐々に切身の加工など専門業務にスキルアップしていく仕組みを作るとともに、評価シートの導入でモチベーションアップを図り、7名の直接雇用（一般就労）を実現。
- 障害者の声に応え、作業場隣接エリアに休憩場を設けるなど就業環境の改善を図るとともに、分かり易い指示・手順（図や写真の掲示）を作成・活用し、職場に浸透しており、顧客からのクレームが年間比12%減少。



一般就労者への
技術継承



指示・手順掲示
（ローラー掛け、異物確認）

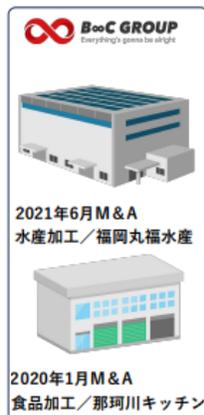


商品パック詰め作業の様子



福祉事業所・企業からの視察
（工場）の様子

体制図



- ・日々の施設外就労
（利用者30～35名）
- ・施設外からの一般就労
- ・障害特性についての研修会

- ・A型事業所売上に繋がる商品卸
- ・施設外就労の受入
- ・一般就労（雇用）の受入



取組の成果

- グループ内障害者施設との連携により水産加工会社の人手不足が解消
- 障害の特性に合わせた作業分担を行うことで、離職が激減。
- 正確な切り身加工等の専門的業務において生産量／日が30%アップし、品質も向上。

	令和3年	令和5年 （見込み）
・施設外就労年間延人数	（人） 1,966	2,060
・一般就労者数（水産加工）	（人） 1	7
・施設外就労売上（水産加工）	（円） 9,106,757	24,891,483

所在地 ▶ 福岡県福岡市博多区博多駅前2-17-25博多クリエイティブビル5F

連絡先 ▶ TEL:0120-888-545

E-mail:kanri@be-smile.net

ウェブサイト ▶ <https://b-continue.co.jp>

【取組のプロセス】

平成22年

障害者の就労定着の実現を目指す

きっかけ

障害者を企業の戦力として社会に定着させたいという強い思いを実現するため、慢性的な人手不足に悩んでいた地域の水産加工会社の事業承継へと至る

平成23年

一般企業へ施設外就労受入れ先の開拓

一般社団法人社会福祉支援協会の設立

- 障害者＝働けないというイメージを変え、障害者を企業の戦力ととらえ、「待つ福祉から攻めの福祉へ」の理念のもと、より豊かな人間社会の実現と、人はみな平等の社会を目指すべく福祉事業を開始。



就労移行支援、就労継続支援A型事業所

平成24年

M&A事業展開
令和2年
那珂キッチン
令和3年
福岡丸福水産

就労移行支援/就労継続支援A型/共同生活援助/通信制高校等を順次開設

- 学び・生活・就労を包括した支援を通じた利用者が安心できる環境づくり。
- パートナー企業19社で施設外就労を積極的に実施。



(2020年M&A那珂キッチン)
国産無添加食品製造会社

令和3年

M&A企業（那珂川キッチン・福岡丸福水産）における施設外就労及び直接雇用

グループ内水産加工会社・国産無添加食品製造会社での施設外就労の開始

- 職人が切った後の加工工程を利用者が担い、大量製造が可能となった。
- 業務に携わって3ヶ月程で福岡丸福水産へ就職するなど、障害者が大きな戦力となっている。
- 那珂川キッチンにおける施設外就労や一般就労は生産性の向上および売上増に繋がっている。



(2021年M&A福岡丸福水産)
水産加工会社

今後の展望

現在迄の
障害者雇用人数
・那珂川キッチン
6名
・福岡丸福水産
7名 合計13名

待つ福祉から、攻めの福祉へ

～ 障害をもっている方一人ひとりの自己実現を応援します。～

- 障害者を含めたグループ全体で技術継承及び人材育成に取組み、水産加工会社や食品製造会社において障害者雇用50%を目指す。
- メディアによる取材・撮影は積極的に受け、職場体験や工場見学の機会を増やし、障害者が戦力として働き、かつ企業の業績を伸ばしていることを発信し続ける。
- 国際規格ISO22000の認証を活かしたものづくり、冷凍自販機の増加等で販路を拡大し、売上増加→生産増加→障害者雇用増加の流れを確かなものにする。この流れをプレスリリースなど通じ多方面に発信していきたい。



(水産加工会社工場内作業)



障害者を含むすべての人がありのまま笑顔になれるコミュニティづくりを目指し、無農薬、無肥料、無化学肥料の自然栽培で野菜や果樹を生産するほか、国内では珍しいバナラビーンズの生産も手掛ける。

基本情報

- 所在地：沖縄県中頭郡北中城村
- 団体名：合同会社ソルファコミュニティ
- 選定表彰：-
- 主力商品等：ローゼル、人参、玉ねぎ、バナラ、オクラ、バナナ
- 取得認証等：-



野菜の選別作業



農場での作業

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所として、障害種別を問わず、スタッフ7名、利用者23名で北中城村及び中城村に農地8か所約3haを借り入れ、年間を通して季節の野菜・果樹など多彩な作物を栽培するとともに、荒廃農地を開墾してバナラや、コーヒー栽培にも着手しており、地域の中心経営体として位置づけられている。
- 障害種別で業務を分けず、個性を重視した仕事の割り振りで、楽しく働き仕事を好きになってもらうことにより、就労意欲の向上を図り、継続的な就労や、一般就労へのステップアップに繋がっている。
- 多品目の通年栽培を行い、年間を通じて安定雇用の場を提供。雇用契約により最低賃金を保障し、経済的な自立をサポート。
- 平成30年から「沖縄農福マルシェ」を主催し県内の農福連携の広がり貢献。



農福マルシェ



バナラ栽培



バナラの花

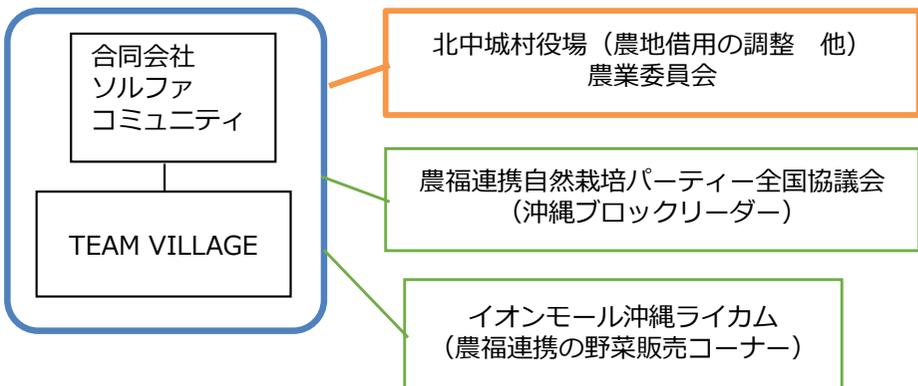


専門学校生の農業体験実習



農福連携野菜コーナー

体制図



取組の成果

○イオンモール沖縄ライカムやうるマルシェ、ハッピーモア市場などの直売所へ農福連携野菜として委託販売。県内スーパーなどへ無農薬野菜の販売先を開拓し、売上高は取組当初から10.8倍。
 ○年間を通じて作業を行い、年間支払賃金は取組当初から2.4倍。

	取組当初	令和4年	上昇率
売上高	1,575千円	17,011千円	10.8倍
年間支払賃金	6,515千円	16,022千円	2.4倍

所在地 ▶ 沖縄県中頭郡北中城村熱田277

連絡先 ▶ TEL:098-989-8880 E-mail:solfa.community@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://solfa.biz/>

【取組のプロセス】

平成24年

福祉に参入した農業生産法人に勤めた際、農業と福祉の相性がいいことに気づく

厚生労働省での農福マルシェをきっかけに沖縄でも実施しようと考えた

沖縄県障害者社会活動推進事業を活用して「沖縄農福マルシェ」主催

県外の洋菓子店から国産バニラビーンズの生産を打診され研究を開始

平成30年

内閣府沖縄振興特定事業推進費補助金を活用してバニラの栽培施設整備

令和元年

10年後までに年間4tのバニラビーンズの生産の実現を目指す

今後の展望

きっかけ

介護職の経験から農業と福祉の親和性を感じ、人や環境にやさしい農業を通じたコミュニティづくりを目指す

合同会社ソルファコミュニティ設立

- 無農薬・無肥料の自然栽培による野菜・果樹の生産を開始すると同時に農福連携の取組も開始する。
- 平成25年3月に就労継続支援A型事業所「TEAM VILLAGE」を設立し、福祉事業に着手。

「沖縄農福マルシェ」を主催

- 平成30年から農福連携に取組む福祉事業所や農業者と連携し「沖縄農福マルシェ」主催し、その後も共催の沖縄農福ラボの代表として毎年開催。県内の農福連携の広がり貢献（現在は、沖縄県に引継ぎ県主催で実施している。）。

さらなる障害者雇用の拡大、収益向上のためバニラビーンズの栽培に着手

- 令和元年度から5年間内閣府沖縄振興特定事業推進費補助金を活用して「おきなわ産バニラビーンズ生産体制整備事業」を実施し生産体制の整備を図る。
- 令和4年には、バニラの主産地であるマダガスカルで農場及びキュアリング（発酵）施設の視察を実施。

沖縄産バニラビーンズの栽培から加工まで行い、増産により国内産で安価で安心、安定的な供給を目指す

- 独自技術で発酵、乾燥させるキュアリング加工場を整備し、生産拡大による荒廃農地の解消、近隣農家へ苗の配布を行い県内全域での生産体制を構築する。
- 観光農園化を目指すと共に、農福連携で日本一の産地を目指す。



ソルファコミュニティのメンバー



ラッピングした送迎車



結実したバニラの莢



マダガスカル視察